

令和5年度 第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会

日時：令和6年2月26日（月） 10:00～

場所：三重河川国道事務所 3階 災害対策室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) 交通拠点に求められる機能調査(交通実態調査・人流データ分析)
- 2) 賑わい創出の取組結果について
- 3) 津駅東口周辺まちづくり懇話会について
- 4) 津駅西口エリアマネジメント会議について
- 5) 次年度以降の検討について

3. 閉 会

令和5年度 第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会 出席者名簿

令和6年2月26日（月） 10:00～
三重河川国道事務所 3階 災害対策室

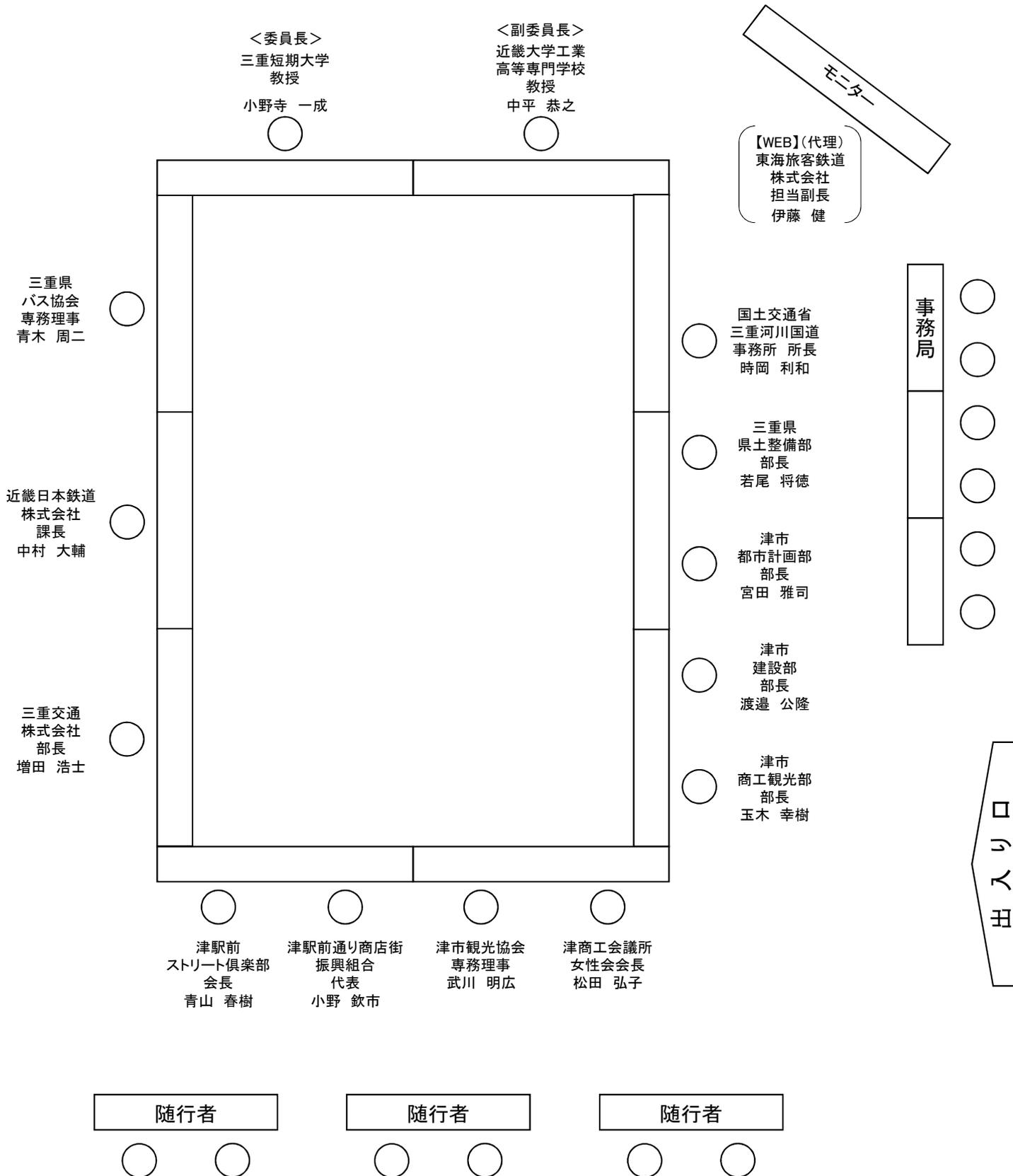
区分	所 属	氏 名	出 欠
1 委員長	有識者	三重短期大学生活科学科 教授 オノデラ 小野寺 一成	出席
2 副委員長		近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科 教授 ナカヒラ 中平 ヤスユキ 恭之	出席
3	交通 関係者	三重県トラック協会 専務理事 カワカタ 川方 ヒサシ 尚	欠席
4		三重県バス協会 専務理事 アオキ 青木 シュウジ 周二	出席
5		三重県タクシー協会 津支部長 ムラタ 村田 トモカズ 友和	欠席
6		東海旅客鉄道株式会社 担当課長 ヒライ 平井 タカシ 崇士	代理出席【WEB】 伊藤 健
7		近畿日本鉄道株式会社 課長 ナカムラ 中村 ダイスケ 大輔	出席
8		三重交通株式会社 部長 マサダ 増田 コウジ 浩士	出席
9		委員	津商工会議所 女性会 会長 マツダ 松田 ヒロコ 弘子
10	津市観光協会 専務理事 タケガワ 武川 アキヒロ 明広		出席
11	津駅前通り商店街振興組合 代表 オノ 小野 キンイチ 欽市		出席
12	津駅前ストリート倶楽部 会長 アオヤマ 青山 ハルキ 春樹		出席
13	行政 関係者	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 所長 トキオカ 時岡 トシカズ 利和	出席
14		三重県県土整備部 部長 ワカオ 若尾 マサリ 将徳	出席
15		津市都市計画部 部長 ミヤタ 宮田 マサシ 雅司	出席
16		津市建設部 部長 ワタベ 渡邊 コウロウ 公隆	出席
17		津市商工観光部 部長 タマキ 玉木 コウキ 幸樹	出席

事務局	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 計画課
	三重県県土整備部 道路企画課
	津市建設部 事業調整室

令和5年度 第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会 席次表

令和6年2月26日（月） 10:00～

三重河川国道事務所 3階 災害対策室



津駅周辺道路空間再編検討委員会 設置要綱

(設置)

第1条 津駅周辺道路空間の整備方針(2022.3策定)をふまえ、その具体化に向け、将来を見据えた専門的な知見や地元意見等、幅広く意見聴取を行うことを目的として、津駅周辺道路空間再編検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、整備方針の具体化について、様々な観点から検討及び協議し、意見を述べるものとする。

(組織)

第3条 委員会は、有識者、交通関係者、経済関係者及び各行政機関をもって構成する。

2 委員の任期は、委員会の所掌事務が完了するまでとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、有識者である委員がこれを務める。

2 委員長は、会務を総理する。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

3 委員長は、必要があると認めるときには、委員会の会議に委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(代理出席)

第6条 交通関係者、経済関係者、各行政機関関係者において、やむを得ない事情により委員会に出席できないときは、代理者を出席させることができる。

(検討部会)

第7条 委員会は、必要に応じて検討部会を設置することができる。

(守秘義務)

第8条 各委員は、個人情報など公開することが望ましくない情報を漏らしてはならない。
また、その職を退いた後も同様とする。

(公開)

第9条 委員会の会議は、原則公開とする。ただし、委員長は、公開することにより公正かつ円滑な会議運営に著しい支障が生ずると認められるなど、特別な理由がある場合には、非公開とすることができる。

(事務局)

第10条 会議の運営に関わる事務を行わせるため、事務局を置くものとする。
2 事務局は、国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所計画課、三重県県土整備部道路企画課、津市建設部事業調整室に置くものとする。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

(令和5年8月1日 設置要綱一部改正)

津駅周辺道路空間再編検討委員会 委員名簿

	所 属	役 職	氏名(敬称略)
委員長	三重短期大学 生活科学科	教授	小野寺 一成
副委員長	近畿大学工業高等専門学校 総合システム工学科	教授	中平 恭之
交通関係者	三重県トラック協会	専務理事	川方 尚
	三重県バス協会	専務理事	青木 周二
	三重県タクシー協会	津支部長	村田 友和
	東海旅客鉄道株式会社	担当課長	平井 崇士
	近畿日本鉄道株式会社	課長	中村 大輔
	三重交通株式会社	部長	増田 浩士
経済関係者	津商工会議所女性会	会長	松田 弘子
	津市観光協会	専務理事	武川 明広
	津駅前通り商店街振興組合	代表	小野 欽市
	津駅前ストリート倶楽部	会長	青山 春樹
行政	国土交通省中部地方整備局 三重河川国道事務所	所長	時岡 利和
	三重県県土整備部	部長	若尾 将徳
	津市都市計画部	部長	宮田 雅司
	津市建設部	部長	渡邊 公隆
	津市商工観光部	部長	玉木 幸樹

第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会

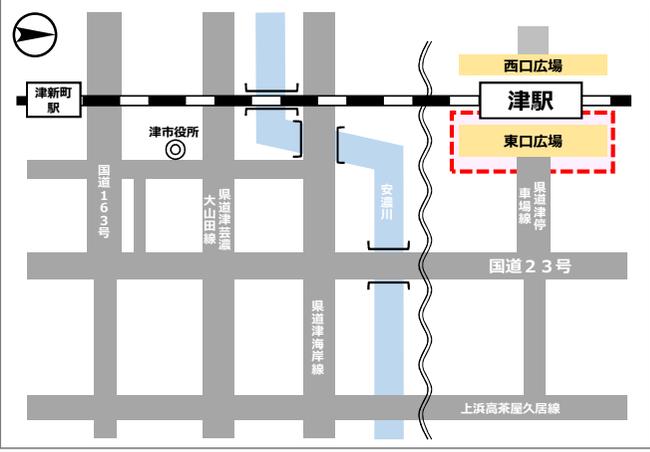
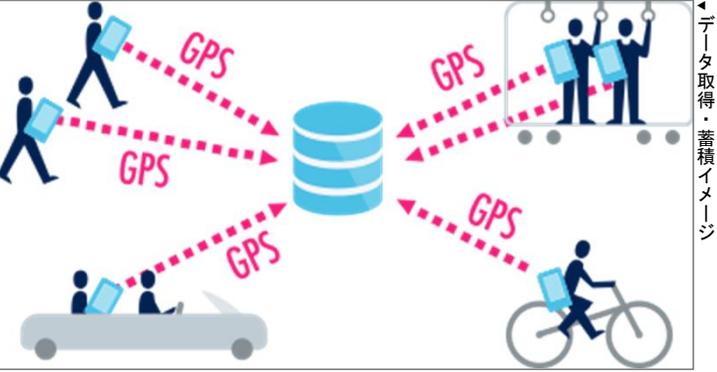
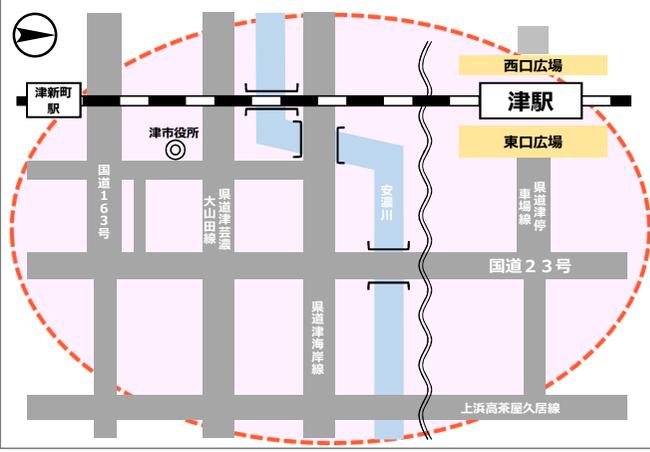
交通拠点に求められる機能調査
(交通実態調査・人流データ分析)

令和6年2月26日
三重河川国道事務所

1. 分析・調査概要

- 「交通実態調査」、「人流データ分析」の調査概要は以下のとおり。

■調査概要

項目	調査目的	使用データ・調査方法	調査対象エリア
<p>交通実態調査</p>	<p>○乗換動線や歩行者人数等を確認するため、主要箇所をビデオ観測し、交通実態を調査・把握。</p>	<p>○ビデオ観測データ ○東口広場の主要箇所にビデオを設置し、利用者動線等を観測。</p> 	<p>○津駅東口広場</p> 
<p>人流データ分析</p>	<p>○人流データ（パーソンプローブデータ）を用いて、津駅周辺地区の交通流動を分析し、移動ニーズを把握。</p>	<p>○ポイント型流動人口データ（Agoop社） ○スマートフォン向けアプリケーションのユーザーのうち、パーミッションを得たユーザーから、GPS位置情報を国内外で取得し、蓄積されたデータ。</p> 	<p>○津駅周辺地区</p> 



次項より、各調査結果について報告

2. 交通実態調査

2-1. 津駅駅前広場利用者調査の体系

■実施概要

- 津駅駅前広場利用者調査の体系は、以下のとおり。
- 令和4年度に西口広場での交通量調査が実施されていることを踏まえ、令和5年度は東口広場において交通実態調査を実施した。

今回報告

■津駅駅前広場利用者調査の体系

項目	津駅西口広場	津駅東口広場
調査日	○令和4年11月8日（水）	○令和5年10月24日（火）
調査主体	○津市	○国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所
調査目的	○交通が集中する時間帯の交通量の把握	○乗換動線や歩行者人数等の把握
調査内容	○交通量調査	○交通実態調査
調査箇所における課題	○バス利用者と歩行者との錯綜 ○送迎車両による交通混雑の発生	○バス待ち行列と歩行者動線の交錯 ○バス・タクシー乗降所の利便性 ○バス待合場所の不足
調査対象	○歩行者 ○自転車 ○自動車	○歩行者

2. 交通実態調査

2-2. 交通実態調査実施概要

- 交通実態調査の実施概要は、以下のとおり。

■実施概要

項目	内容
分析目的	○乗換動線や歩行者人数等を確認するため、主要箇所をビデオ観測し、交通実態を調査・把握
調査方法	○東口広場の主要箇所にビデオを設置し、利用者動線を観測
調査期間	○令和5年10月24日（火）7:00～24:00（17時間調査）
調査エリア	○津駅東口広場

■カメラ設置箇所



■調査目的と活用方針

撮影箇所 (カメラ番号)	調査対象		調査目的	交通拠点の機能強化検討への活用方針
	歩行者 動線	待ち人数 バス タクシー		
A	○	○	○ 駅出口～バス乗り場の歩行者動線・人数の観測 ○ バス乗り場の待ち人数の簡易観測	<p>○ 移動ニーズを踏まえた最適な歩行者動線の計画 ○ 歩行者空間を阻害しない適切な待合スペースの検討に活用</p> <p><具体的な活用方針> ○ 最適な歩行者動線の検討・分散している動線や用途（乗換、通過、滞留）を把握し、集約方針を整理 等 ○ 適切な待合スペースの検討・待ち人数をもとにした必要な待合スペースの整理 等</p>  <p>▲人が主役の都市交通ターミナル画角 出典：2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（国土交通省）</p>
B	○	○	○ バス乗車人数の簡易観測	
C	○	○	○ 駅出口～タクシー乗り場・地下道の歩行者動線・人数の観測 ○ タクシー乗り場の待ち人数の簡易計測 ○ タクシー乗車人数の簡易観測 ○ バス降車人数の簡易観測	
D	○		○ 駅出入口部の歩行者動線・人数の観測	
E	○		○ 駅出口～県道津停車場線方面へ向かう歩行者動線・人数の観測	
F	○			
G	○		○ 栄町三丁目バス停～駅へ向かう歩行者動線・人数の観測 ○ バス降車人数の簡易観測	

2. 交通実態調査

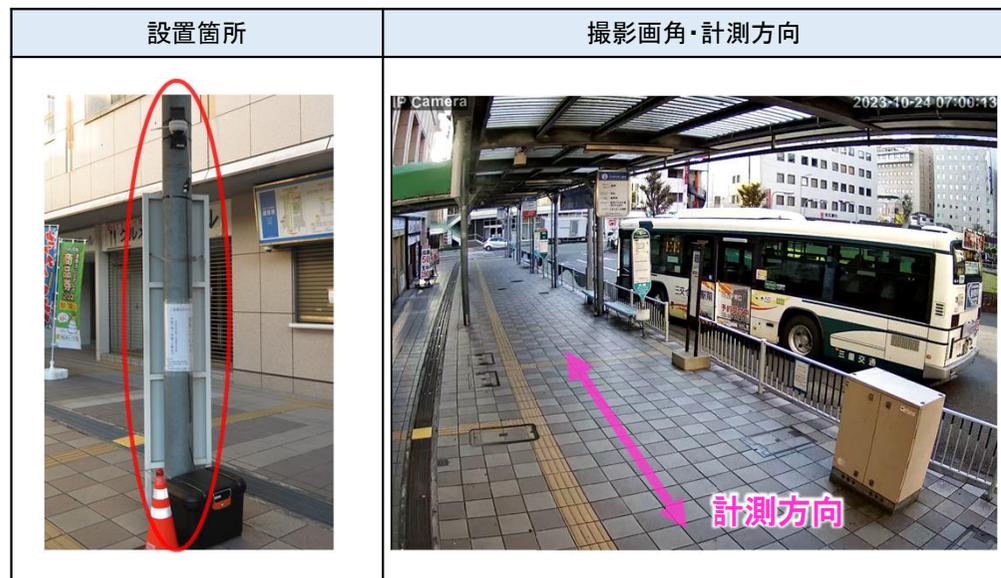
2-2. 交通実態調査実施概要

● 交通実態調査における具体的なカメラ設置箇所および撮影画角は、以下のとおり。

■ カメラ設置箇所・撮影画角



カメラA



カメラB



カメラC



カメラD



2. 交通実態調査

2-2. 交通実態調査実施概要

● 交通実態調査における具体的なカメラ設置箇所および撮影画角は、以下のとおり。

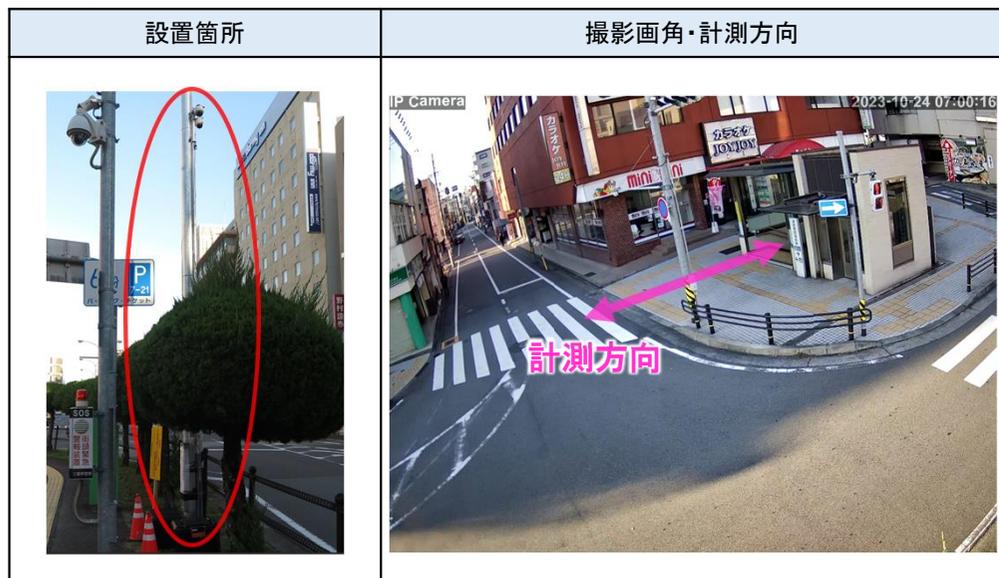
■ カメラ設置箇所・撮影画角



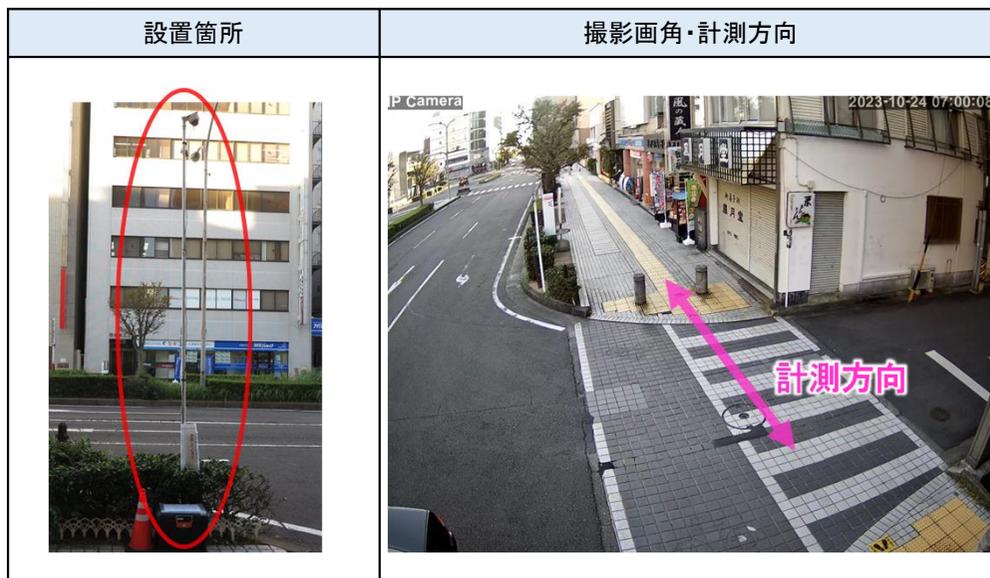
カメラF



カメラE



カメラG



2. 交通実態調査

2-3. 交通実態調査の調査結果

■集計項目・方法・目的

- 交通実態調査の集計項目・方法・目的は、以下のとおり。

集計項目	集計方法	集計目的
■歩行者	○経路別(北、東、南)の歩行者数の集計	○歩行者流動の面的な把握
	○時間帯別(朝ピーク(7~9時)、昼間(13~15時)、夕ピーク(17~19時))の歩行者数の集計	○歩行者流動の時間傾向の把握
■バス利用者	○時間帯ごとのバス待合人数・乗車・降車人数の整理	○バス利用のピーク人数及びピーク時間の把握
■タクシー利用者	○時間帯ごとのタクシー乗車人数の整理	○タクシー利用のピーク時間及び利用人数の把握

計画進捗に合わせ
具体検討を実施

交通機能強化 検討

- 最適な歩行者動線の検討

- 適切な乗降場・待合空間の検討

2. 交通実態調査

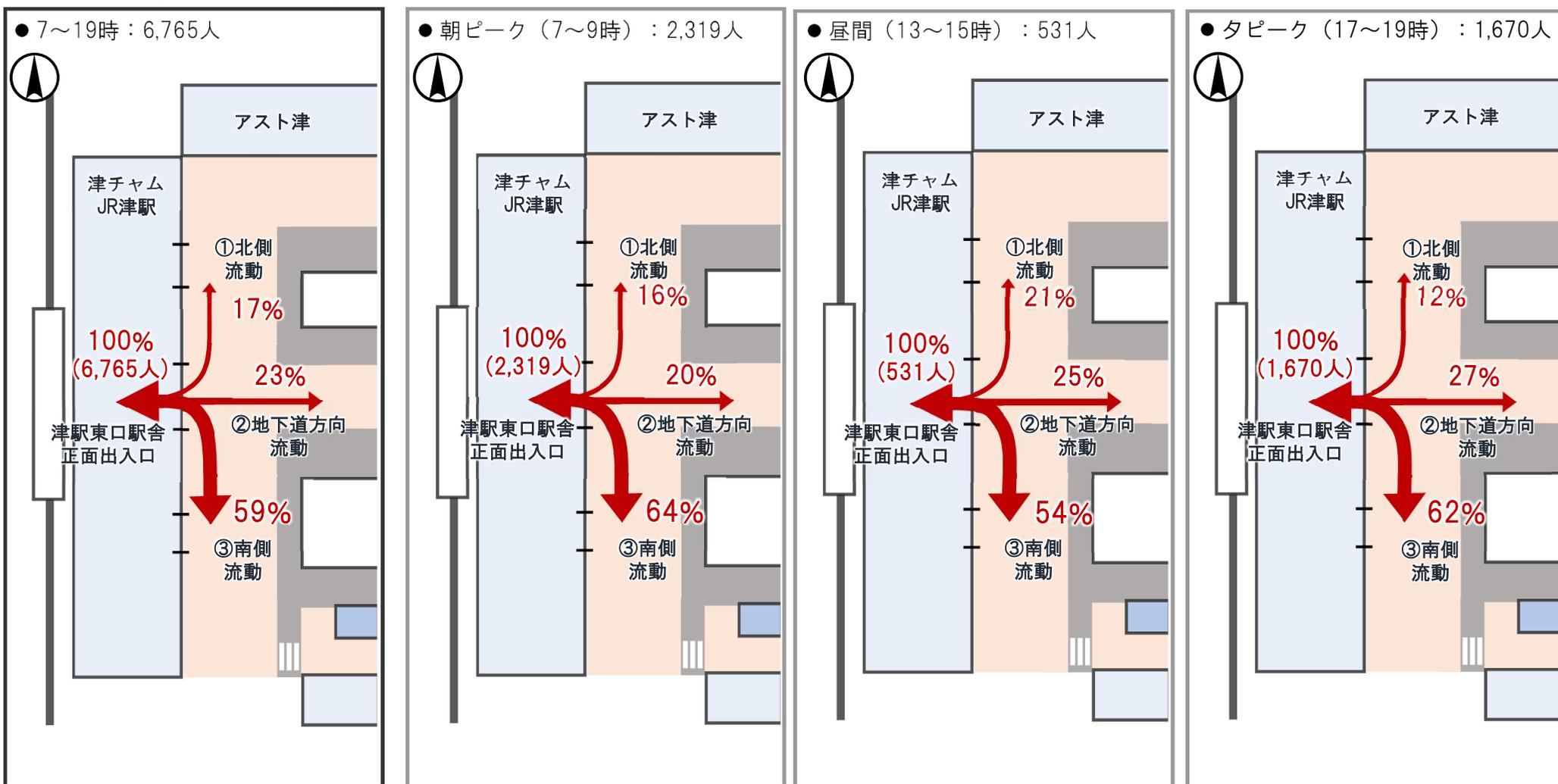
2-3. 交通実態調査の調査結果

歩行者流動（津駅東口駅舎正面出入口利用者）

- 津駅東口駅舎正面出入口利用者の方向別歩行者交通量の割合は、以下のとおり。
- いずれの時間帯においても分担率の傾向は同じであり、**③南側**の歩行者流動が最も多く、次いで②地下道方向、①北側と続く。

駅前広場南側の歩行者流動が最も多い

■津駅東口駅舎正面出入口利用者の方向別割合



2. 交通実態調査

2-3. 交通実態調査の調査結果

歩行者流動（バス利用者を除く津駅東口広場歩行者）

- すべての時間帯において、③南側の歩行者流動が最も多く6割以上。
- 朝ピークを除き、③南側に次いで①北側の歩行者流動が多く2～3割、②地下道方向は1～2割。
- ピーク時間においては、歩行者動線とバス待ち列が錯綜している状況が観測されたことから、必要な歩行空間が不足している可能性がある。

駅前広場南側の歩行者流動が最も多い

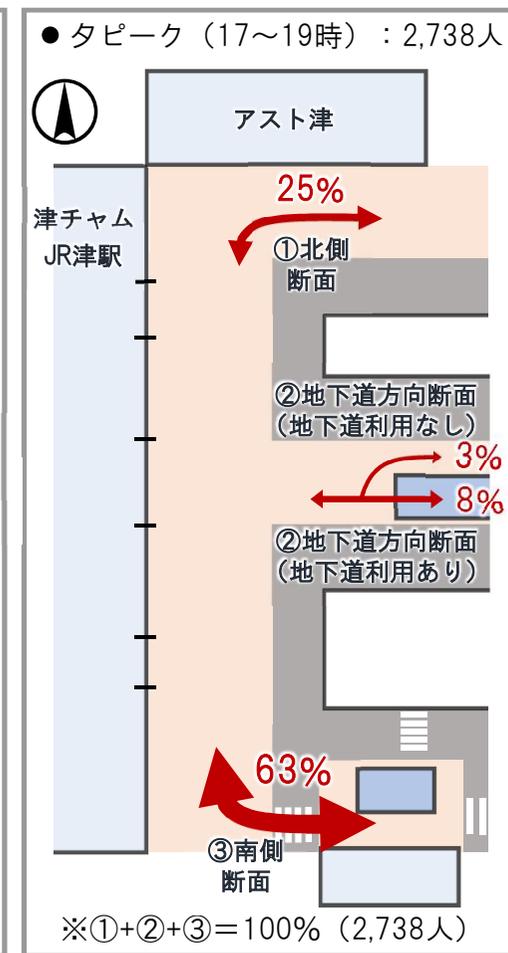
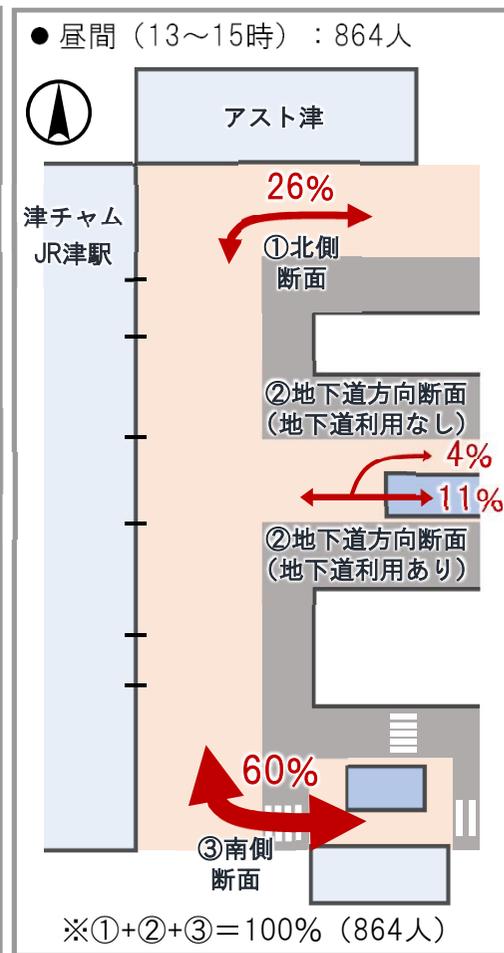
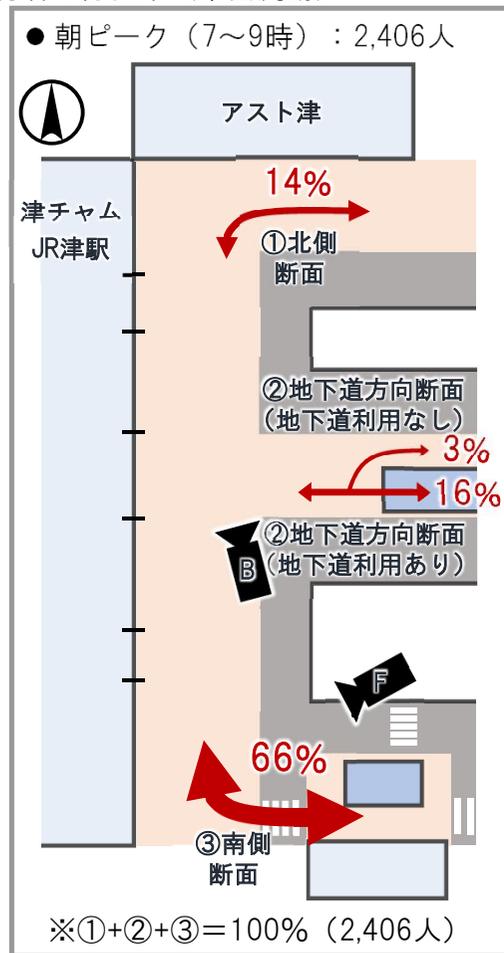
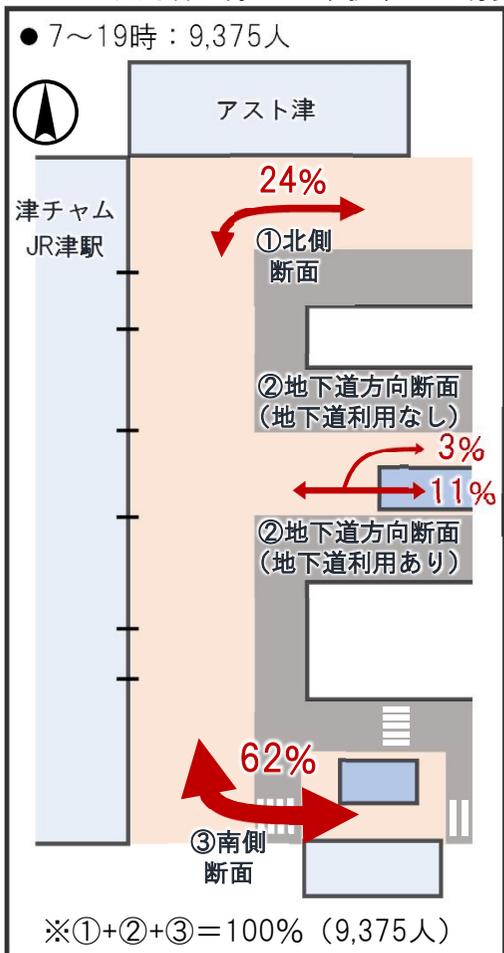
■朝ピーク時 歩道の混雑状況
正面出入口前（カメラB）



■駅南側（カメラF）



■バス利用者を除いた津駅東口広場歩行者の分担率（東西流動）



2. 交通実態調査

2-3. 交通実態調査の調査結果

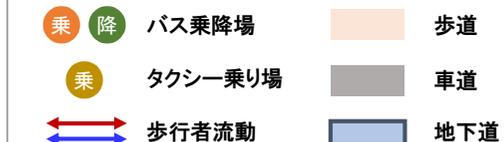
歩行者流動（津駅全体）

■朝ピーク（7～9時）

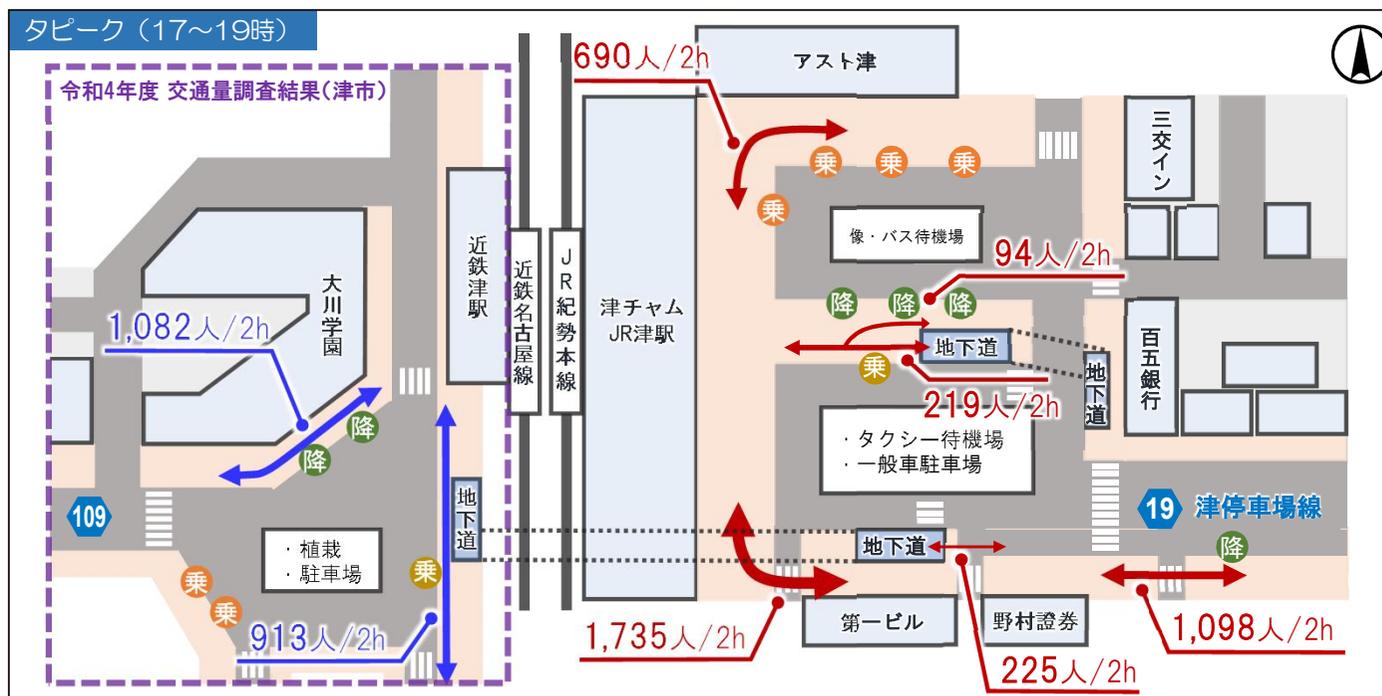
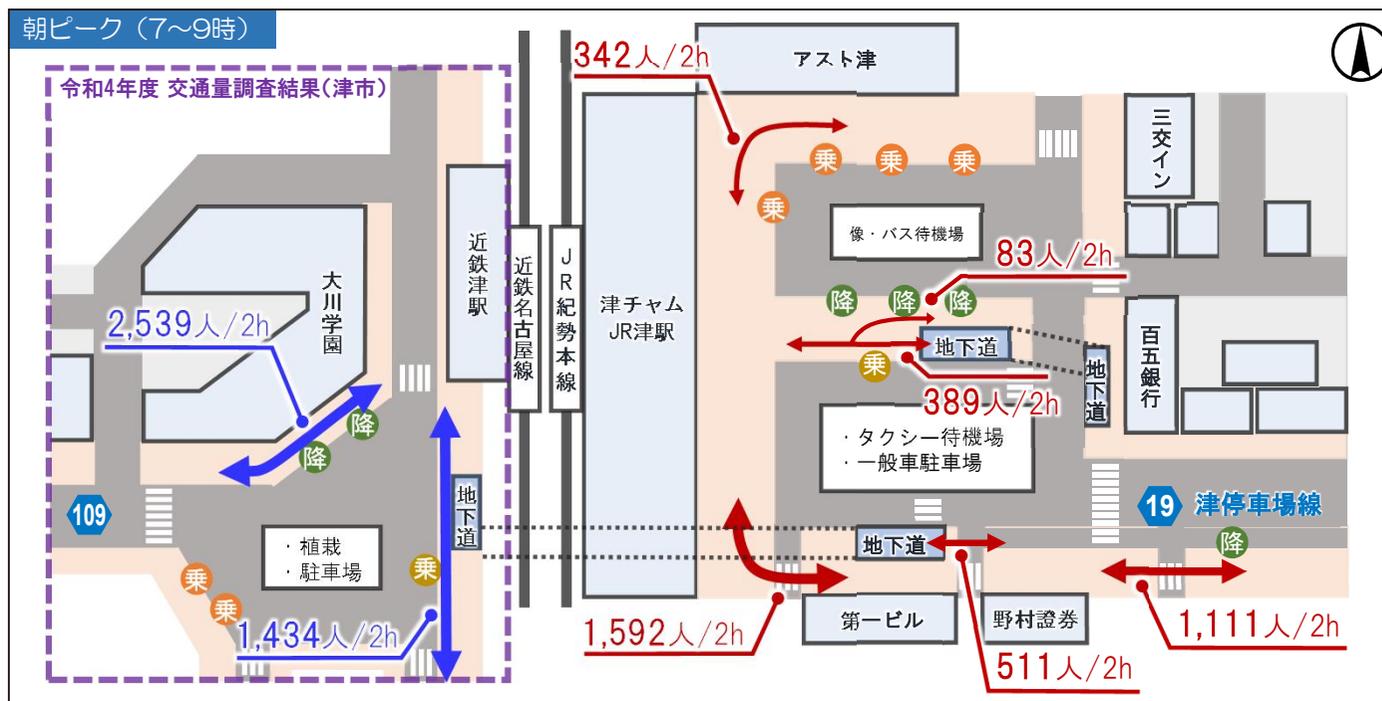
- 駅前広場南側の地下道は、500人/2h程度の方が利用しており、津駅をまたぐ東西の一定の移動ニーズを確認。

■夕ピーク（17～19時）

- 東口の歩行者数は、朝ピーク（7～9時）の時間帯と大きな変化は見られない。
- 駅前広場南側の地下道は、夕ピーク（17～19時）においても、200人/2h程度の方が利用しており、津駅をまたぐ東西の一定の移動ニーズを確認。



津駅をまたぐ東西の一定の移動ニーズを確認



2. 交通実態調査

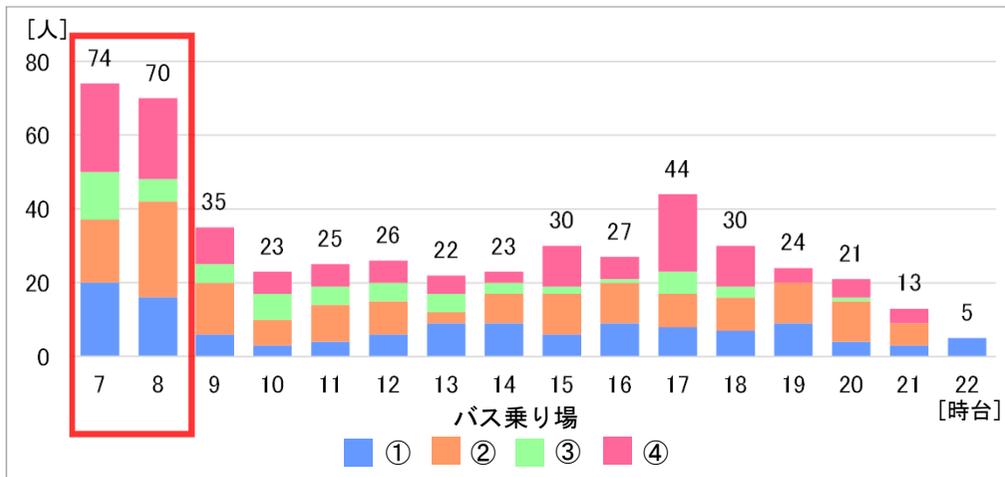
2-3. 交通実態調査の調査結果

バス待ち・乗車・降車人数

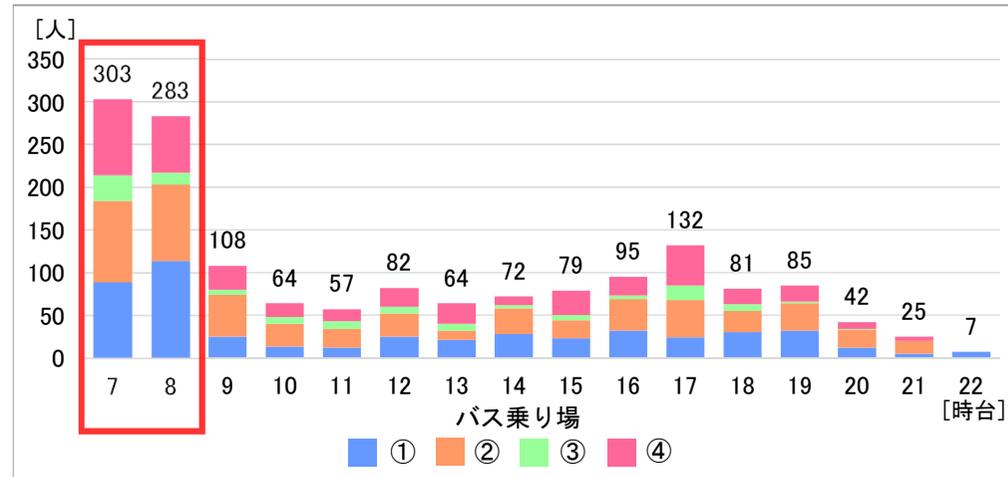
- バス待ち・乗車人数について、ピークは7～9時であり、最大70人以上が、待ち列に並ぶ。
- バス降車人数について、ピークは7～9時および、16～20時であった。
- 朝の7～9時においては、乗車・降車のピークが重なっている状況である。

バス待ち・乗車ピークは7～9時
 バス降車ピークは7～9時・16～20時
 バス乗車とバス降車は、
 いずれも7～9時にピークが発生

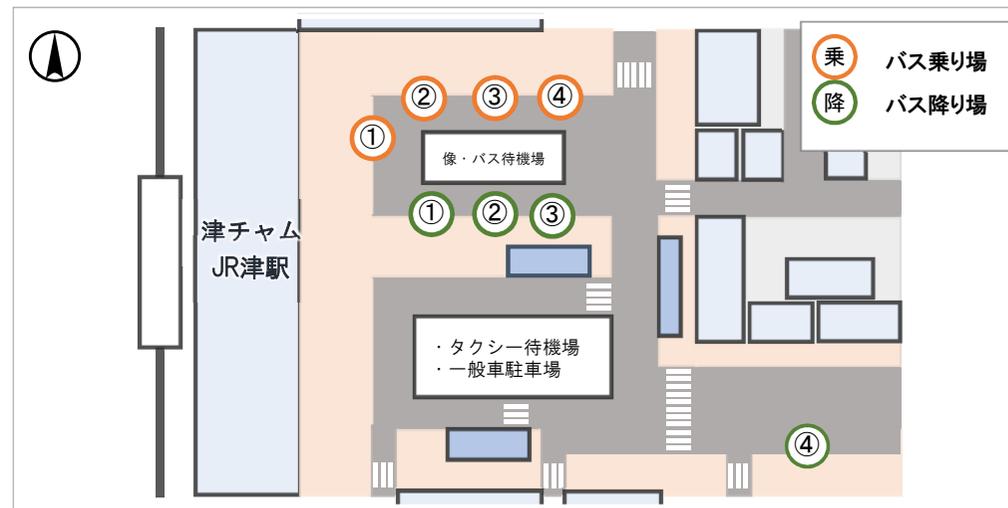
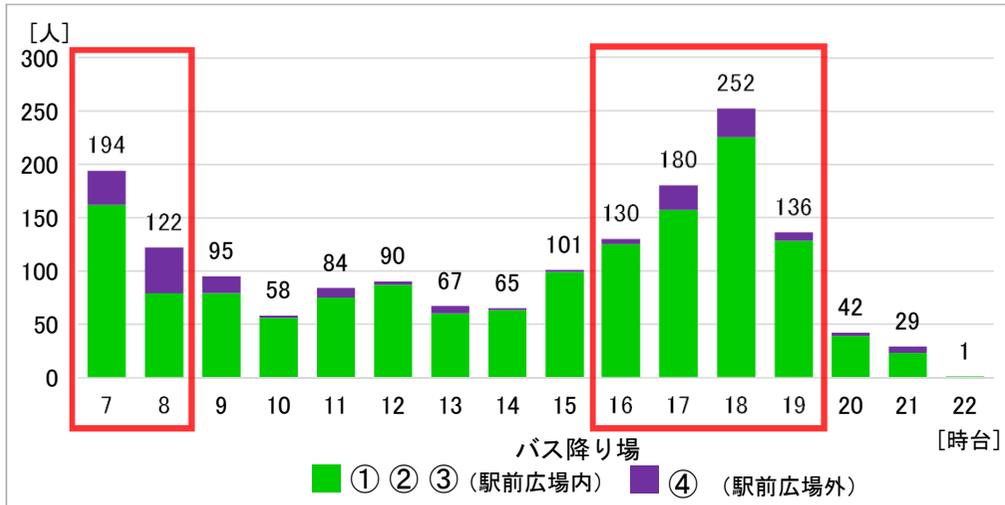
■最大の待ち人数（各時間帯における、最大のバス待ち行列の人数）



■乗車人数



■降車人数

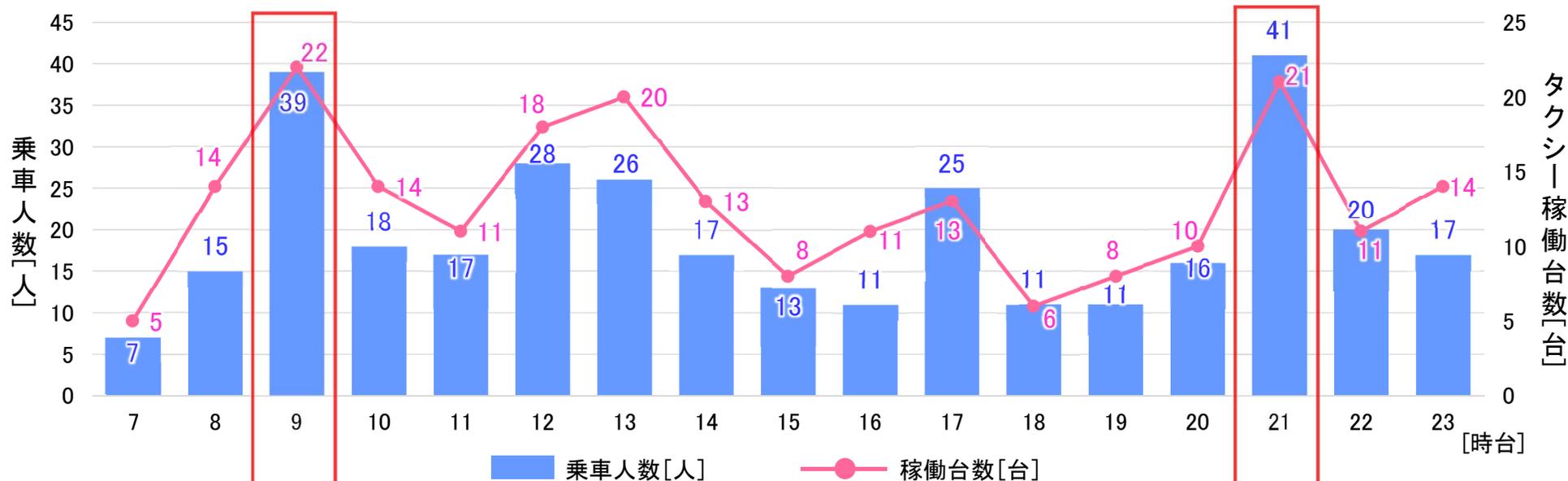


2. 交通実態調査

2-3. 交通実態調査の調査結果

タクシー乗車人数

- タクシー乗車人数のピークは21時台、次いで9時台。
- 今回の調査では、いずれの時間においてもタクシー待ちは観測されなかったものの、1日を通して恒常的な一定の需要を確認。
- 年末等の繁忙期においては、さらなる需要の増加が予想され、タクシーを含む交通結節機能の確保が必要。



	時刻[時台]																	合計
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
乗車人数	7	15	39	18	17	28	26	17	13	11	25	11	11	16	41	20	17	332
稼働台数	5	14	22	14	11	18	20	13	8	11	13	6	8	10	21	11	14	219



タクシー乗車人数は
朝(9時台)と夜(21時台)に集中

2. 交通実態調査

2-5. まとめ

分析項目	集計目的	集計結果
歩行者	■歩行者流動の面的な把握	<p>○東口広場では、駅前広場南側を利用した流動が6割以上と、最も多い。ただし、東口広場北側の経路についても、2~3割程度の流動が発生。</p> <p>○駅前広場南側の地下道では、一定の利用が見られ、東西移動ニーズを確認。</p> <p>○ピーク時間において、歩行者動線とバス待ち列が錯綜しており、必要な歩行空間が不足している可能性。</p>
	■歩行者流動の時間傾向の把握	<p>○朝ピーク（7~9時）および夕ピーク（17~19時）の歩行者数は、昼間（13~15時）の約3倍であり、朝と夕方方に駅利用が集中。</p>
バス利用者	■バス利用のピーク人数及びピーク時間の把握	<p>○バスの乗車・待ち列のピークは、朝（7~9時）の時間帯に集中し、最大70人以上の待ち列が発生。</p> <p>○降車人数のピークは7~9時および、16~20時。</p> <p>○バス乗車人数とバス降車人数は、いずれも朝（7~9時）の時間帯にピークが発生。</p>
タクシー利用者	■タクシー利用のピーク時間及び利用人数の把握	<p>○タクシー乗車人数は朝（9時台）と夜（21時台）の時間帯に集中しているが、1日を通して恒常的な需要を確認。</p>

具体検討時に活用

交通機能強化検討への活用の方向性

- 最適な歩行者動線を計画するうえでは、以下の点を踏まえ、検討
 - 東口における南側の歩行者流動の割合が高いため、**南側の経路を主動線**とした歩行者動線計画を検討。
 - 一方で、**一定の駅をまたぐ東西移動の需要**も存在するため、主動線に偏った計画とならないよう留意が必要。東西自由通路など、**専用通路の機能改善**を図り、一定の歩行利便性を確保することが望ましい。
 - ピーク時間においては、必要歩行空間が不足している可能性があるため、**歩行空間の拡張・確保**が望ましい。
- 適切な乗降場・待合空間を計画するうえで、以下の点を踏まえ、検討
 - バスの乗降ピークは、朝の時間帯に集中しているため、利用者の錯綜の回避、運用の効率性を踏まえると、引き続き、**乗り場、降り場を分けた運用**が望ましい。
 - タクシーの恒常的な需要が確認されたことから、**タクシー乗り場の空間整備が必要**。
 - ピーク時間においては、必要歩行空間が不足している可能性があり、現在その状況下で待ち列（最大70人程度）が発生している状況。歩行空間に加え、**待合空間の拡張・確保**が望ましい。

3. 人流データ分析

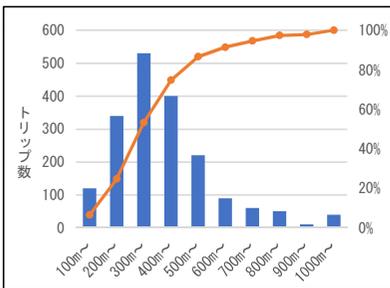
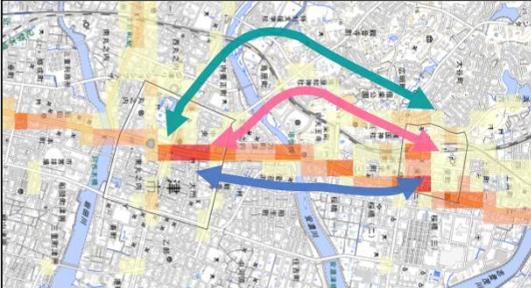
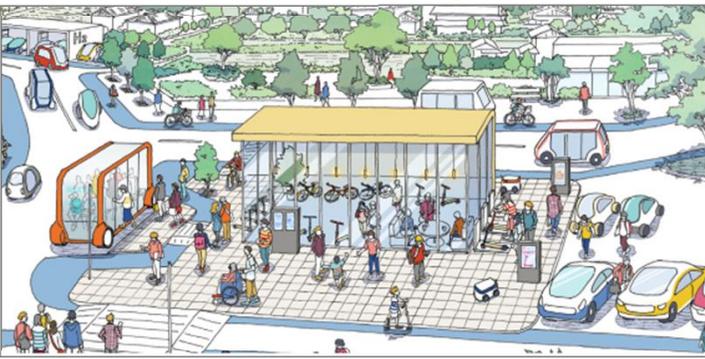
3-1. 実施概要

● 人流データ分析の実施概要および分析目的と活用方針は以下のとおり。

■実施概要

項目	内容
分析目的	○人流データ（パーソンプローブデータ）を用いて、津駅前周辺地区の交通流動を分析し、移動ニーズを把握。
調査方法	○ポイント型流動人口データ（Agoop社）
分析期間	○2023年6月 平日・休日別（平日5日間、休日4日間）
分析時間	○朝ピーク：7～9時、昼間：13～15時、夕ピーク：17～19時
分析エリア	○津駅前地区、大門・丸之内地区

■調査目的と活用方針

調査項目	調査目的 (アウトプットイメージ)	交通拠点の機能強化検討への活用方針
来訪者の居住地	○交通結節点整備の対象地区（津駅前地区）の顕在的な移動ニーズを把握 ▼利用圏域分析イメージ▶	○整理された顕在的な移動ニーズや、利用者アンケート調査等から把握される、潜在的なニーズを重ね合わせ、将来的に津駅前地区で強化すべき交通手段や導入すべき移動サービス機能を検討
来訪者の交通手段		<p style="text-align: center;">＜具体的な活用方針＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○強化すべき交通手段の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・利用圏域と現行路線バス運行エリアの比較による運行エリアの過不足の確認 等 ○導入すべき移動サービス機能の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・トリップ長を踏まえた最適な導入モビリティの選定 等
利用圏域 (トリップ分布)		
交通流動・利用経路	○交通結節点整備の対象地区（津駅前地区）と地区間の交通連携状況を把握 ▶地区間の交通流動・利用経路分析イメージ▶	▼多様な交通手段の乗り換え拠点イメージ
利用交通手段		

出典：2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（国土交通省）

3. 人流データ分析

3-2. 分析項目・方法・目的

● 人流データ分析の分析項目および方法・目的は以下のとおり。

分析種別	分析項目	分析対象	集計方法	集計目的
エリア内分析	来訪者の居住地	津駅前地区	○対象エリアに滞在※ ¹ が確認されたIDの、居住地ごとのログデータサンプル数の集計	○対象エリア滞在者の顕在的な移動ニーズにおける基礎情報の把握
	来訪者の交通手段		○対象エリアに滞在※ ¹ が確認されたIDの、エリア来訪時の代表交通手段および、交通手段ごとの利用時間割合の集計	
回遊行動分析	利用経路	津駅前地区	○対象エリアに立ち寄り確認されたIDの、利用経路のログデータサンプル数の集計(100mメッシュ単位)	○津駅前地区に立ち寄る利用者の移動経路を把握
	利用圏域(トリップ分布)		○対象エリアに立ち寄り確認されたIDの、移動距離の集計	○津駅前地区に立ち寄る利用者の移動距離や移動が多いエリアを把握
	地区間利用経路	津駅前地区 × 大門・丸之内地区	○津駅前地区と大門・丸之内地区間のトリップ※ ² が確認されたIDの、地区間利用経路のログデータサンプル数の集計(100mメッシュ単位)	○津駅前周辺地区間の移動経路の把握
	利用交通手段		○津駅前地区と大門・丸之内地区間のトリップ※ ² が確認されたIDの、地区間移動の代表交通手段および、交通手段ごとの利用時間割合の集計	○津駅前周辺地区間の移動手段の把握

※¹ 「滞在」の定義は以下のとおりとする。

・同エリア内にログデータが連続して存在し、連続したログデータの最初と最後の時刻差が30分以上(宿泊による切り替え等の区分はなし)

※² 「トリップ」の定義は以下のとおりとする。

・同じ100mメッシュ内にログデータが連続して存在し、対象エリア⇄「滞在」地点間の移動をトリップとする

計画進捗に合わせ
具体検討を実施

潜在ニーズ
(アンケート調査等)



交通機能強化
検討

○強化すべき
交通手段の検討

○導入すべき
移動サービス機能の
検討

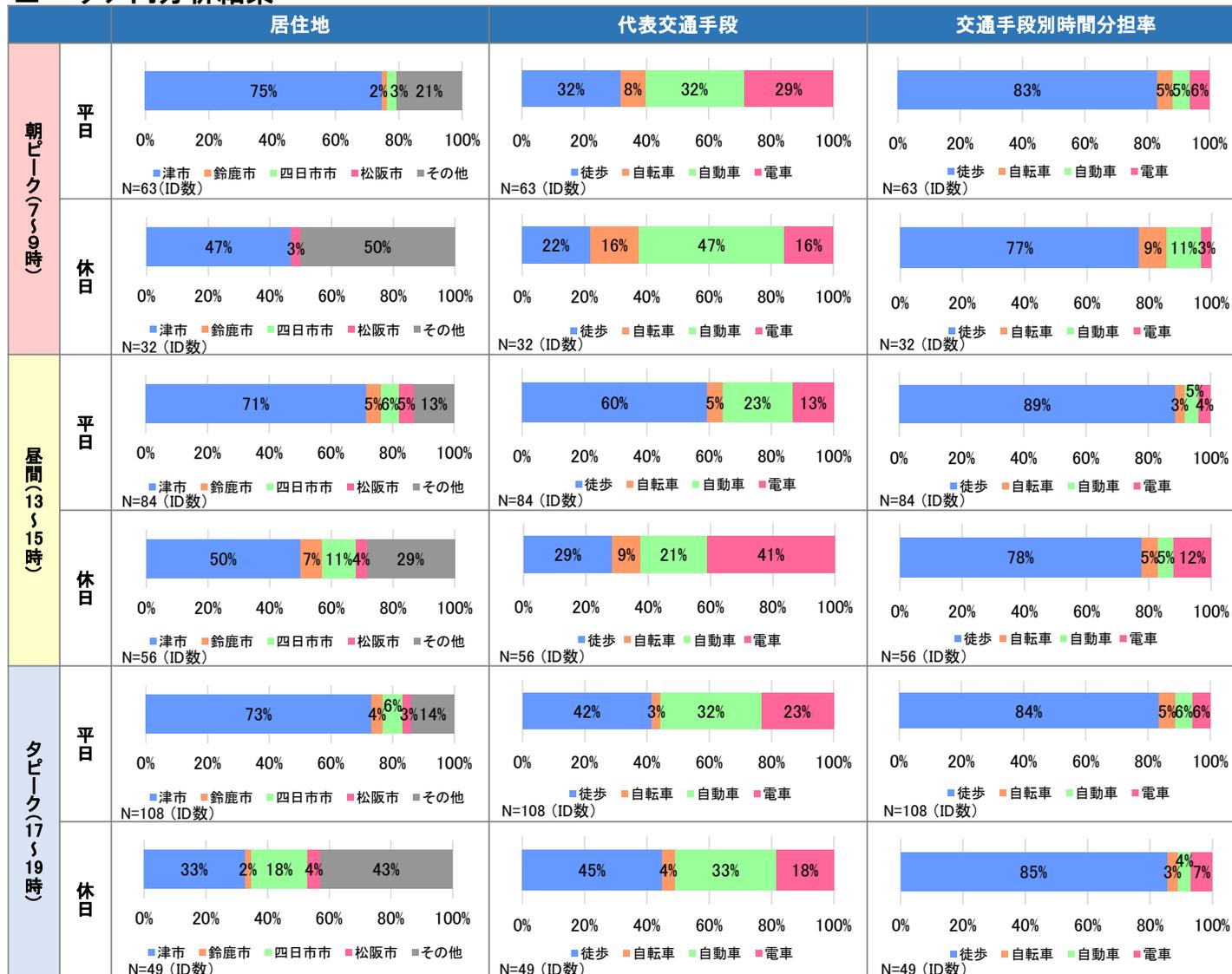
3. 人流データ分析

3-3. エリア内分析（津駅前地区への滞在が確認されたID）

- 平日は津市内からの来訪者が大半を占めるが、休日は中勢地域（津市、鈴鹿市、四日市市、松阪市）外からの来訪者の割合が増加。
- 代表交通手段は、朝ピーク時は自動車、夕ピーク時は徒歩の割合が最も高い一方、**時間分担率は、徒歩の割合が最も高い。**

■エリア内分析結果

■分析対象エリア



※移動距離代表交通手段は、各サンプルにおいて、最も移動距離の長い交通手段を表すものである。

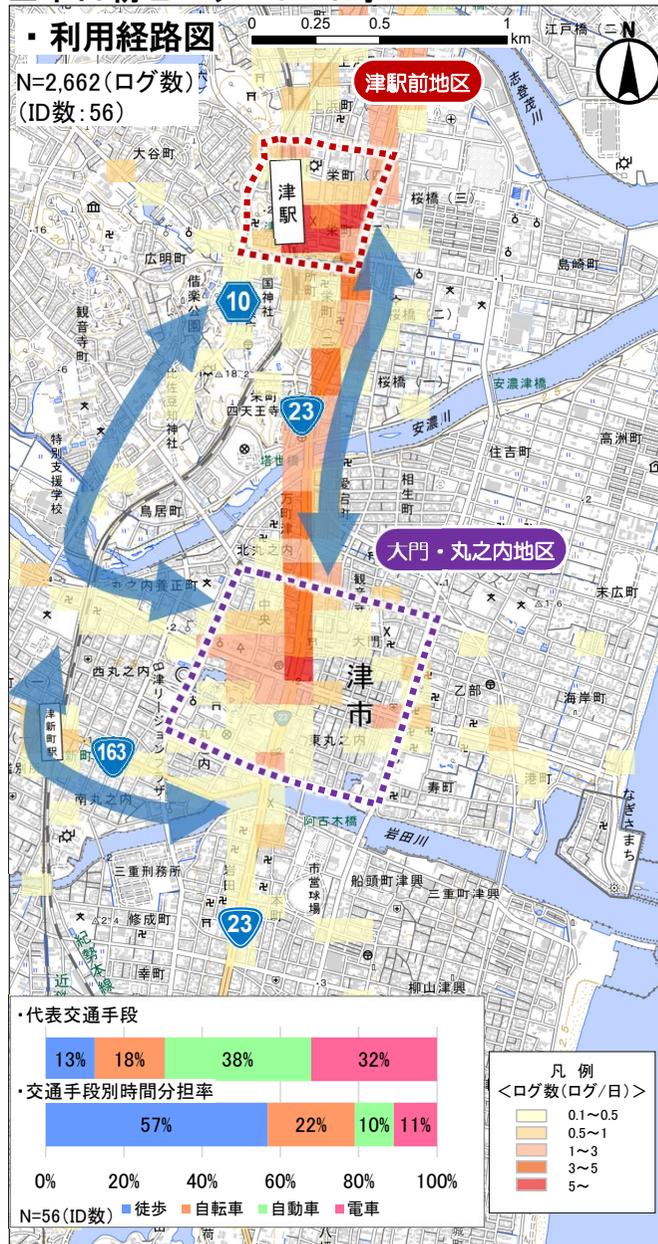
※交通手段別時間分担率は、全トリップに占める、各交通手段の時間割合を表すものである。

3. 人流データ分析

3-4. 回遊行動分析（津駅前地区～大門・丸之内地区の立ち寄りが確認されたID）

- 2地区間の移動経路は、国道23号が多い一方、県道10号や国道163号等、他の路線を利用した経路を確認。
- 2地区間の移動における代表交通手段は自動車の割合が最も高い一方、時間分担率では、徒歩の割合が最も高い。

■平日朝ピーク：7～9時



■休日朝ピーク：7～9時



3. 人流データ分析

3-5. まとめ

潜在的なニーズと組み合わせ
具体検討時に活用

分析種別	分析項目	分析対象	集計目的	集計結果
エリア内分析	来訪者の居住地	津駅前地区	○対象エリア滞在者の顕在的な移動ニーズにおける基礎情報の把握	○平日は津市内からの来訪者が大半を占めるが、休日は広域的な来訪者が増加。
	来訪者の交通手段			○代表交通手段は、朝ピーク時は自動車、夕ピーク時は徒歩の割合が最も高い一方、 時間分担率は、徒歩の割合が最も高い。
回遊行動分析	利用経路	津駅前地区	○津駅前周辺地区に立ち寄る利用者の移動経路を把握	○ 朝ピークにおいては、鉄道やその他様々なルート を利用した経路を確認。
	利用圏域(トリップ分布)		○津駅前周辺地区に立ち寄る利用者の移動距離や移動が多いエリアを把握	○平日の朝ピークにおいては長トリップの割合が高い傾向にあり、休日の朝ピークにおいては1km未満の 近距離トリップの割合が高い。
	交通流動利用経路	津駅前地区 × 大門・丸之内地区	○津駅前周辺地区間の移動経路の把握	○平日休日ともに、両地区間の移動経路は 国道23号の利用が多い一方、県道10号や国道163号等、他の路線を利用した経路の一定の需要 を確認。
	利用交通手段		○津駅前周辺地区間の移動手段の把握	○平日休日ともに、両地区間の移動における交通手段として、 自動車の割合が最も高いが、時間分担率は徒歩の割合が最も高い。

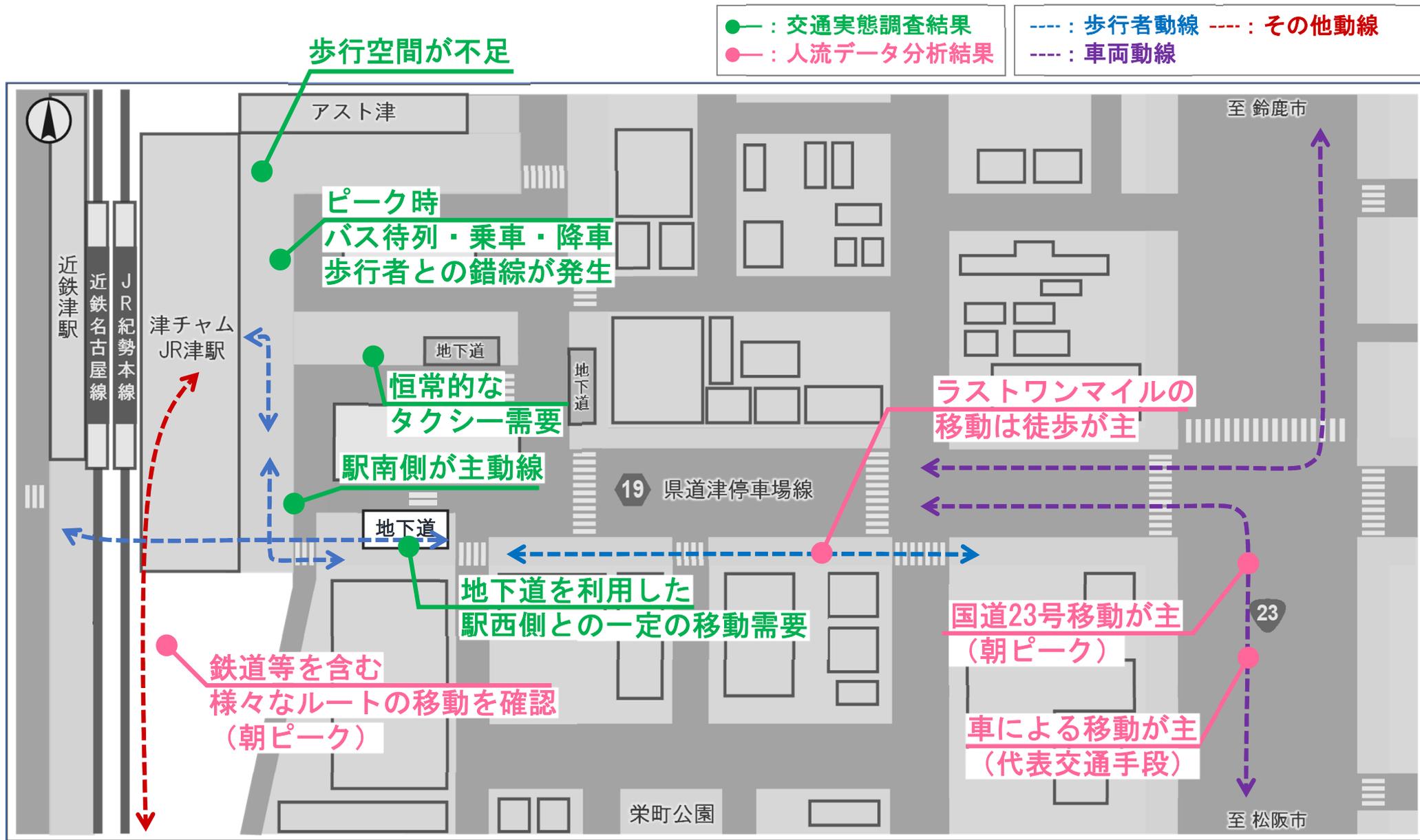
交通機能強化検討への活用方向性

- 強化すべき交通手段について、以下の点を踏まえ、検討
- 移動時間における徒歩移動が占める割合が高い**ため、路線バスを含む、近距離移動を目的とした公共交通サービスの強化に対する需要が大きい可能性。
- 主要な幹線道路に限らない様々なルートを活用した公共交通サービスの拡充**への需要が大きい可能性。
- 休日の朝は、自動車による広域的な移動が多数を占める傾向がある一方、平日の朝は比較的、自動車以外の利用割合が増加する傾向。**平日における公共交通サービスの機能強化**を優先的に検討していくことが望ましい。
- 導入すべき移動サービスについて、以下の点を踏まえ、検討
- 移動時間における徒歩移動の割合が高く、近距離トリップの割合も高い。**駅に対し各方面からのラストワンマイルの移動支援**を目的とした移動サービスの導入に対する需要が大きい可能性。

4. まとめ

4. まとめ

● 交通実態調査、人流データ分析により把握された、津駅前地区の交通実態・移動ニーズの特徴・課題について整理した。



第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会

津駅周辺道路空間における 賑わい創出の取組結果について

令和6年2月26日

三重県

賑わい創出の取組概要

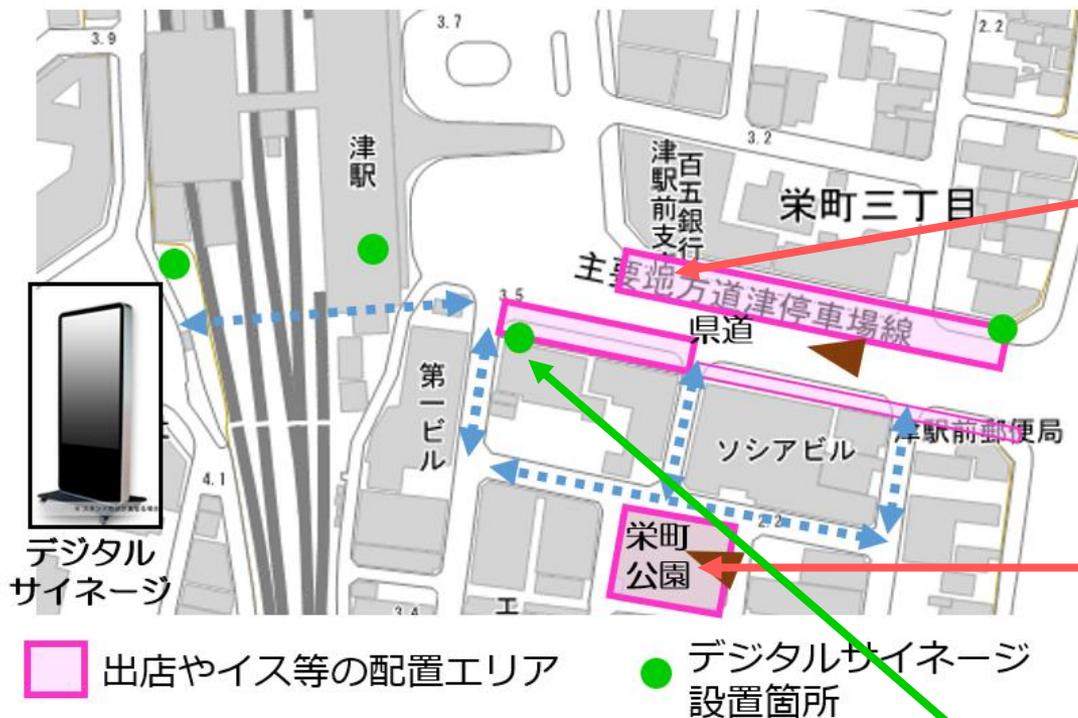
実施日 ■ 令和5年10月11日～10月22日（各日10時～18時）
（交通規制は、10月10日～10月23日）

- 内容 ■ 県道だけでなく栄町公園も利用し、面的に賑わい創出の取組を実施
（キッチンカーや店舗の出店、テーブル・イスを配置します）
- デジタルサイネージを駅周辺に設置し、東西連携や回遊性を高める

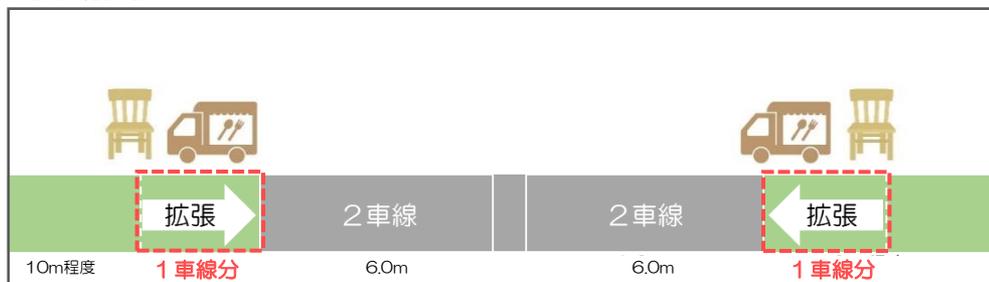


賑わい創出の取組状況

社会実験の平面図



横断面図



賑わいの社会実験の調査項目

1 利活用の状況調査

拡張した歩道空間の店舗やベンチ・テーブル・イスについて
どのような使われ方をしているか
利用者数、利用状況等をビデオカメラで確認

2 東西連携や回遊性の調査

地下道や公園の利用者数、利用状況等をビデオカメラで確認

3 賑わいや滞留の意向調査

アンケート結果やヒアリング結果を確認

1 利活用の調査結果

キッチンカーや店舗の状況

キッチンカー・物販の出店者 **32** 店舗
(延べ95店舗)

延べ利用者数 約10,000人



1 利活用の調査結果

働くクルマ等のイベント状況

働くクルマ等のイベント数 **8回**

延べ利用者数 約2,000人



1 利活用の調査結果

ベンチ、テーブル・イスの利用状況

幅広い年代が様々なシーンで利用（家族、友達、恋人など）



1 利活用の調査結果

まとめ

- キッチンカー・物販の利用者延べ約10,000人、イベント参加者延べ約2,000人、合計延べ約12,000人(前回6,500人)が来場し大いに賑わった。
- テーブル・イスやベンチは、幅広い年代が自由に利用していた。
- 栄町公園内に設置したテーブル・イスは、期間中の平均で、約5割以上が使用されており、平日のランチ時間帯では約7割、休日のイベント時には終日ほぼ満席であるなど、県道の賑わいが公園周辺に面的に波及した。



2 東西連携や回遊性の調査結果

東西連携や回遊性について

- 社会実験の前後で、地下道利用者数をカウント
- 回遊状況を確認するため、栄町公園周辺の歩行者交通量を調査

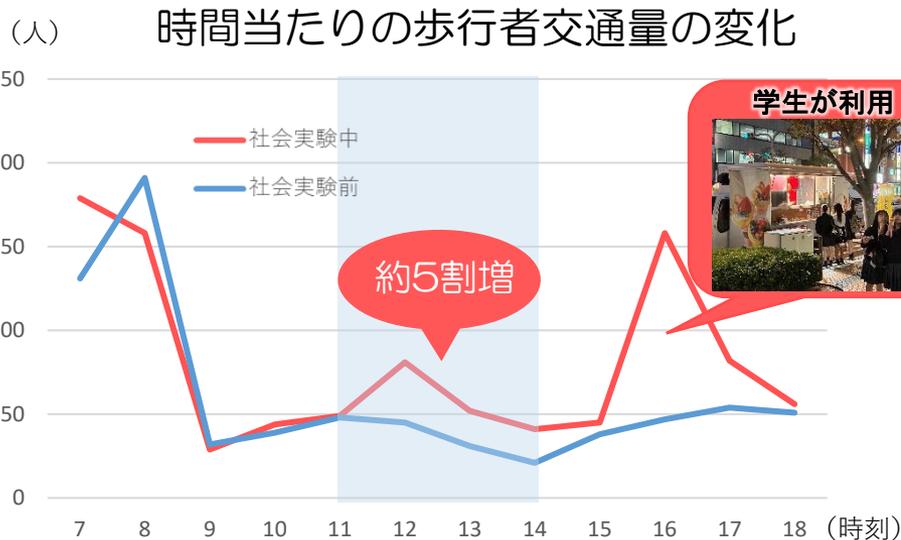


地下道利用者数の変化（西口から東口方向（平日））

- 地下道利用者数は、実験前と比較し、実験中で**約3割増**
- 実験中の時間当たりの歩行者交通量は、ランチ時間帯で**約5割増**
- 夕方の利用者数増加は**学生**と考えられる

12時間交通量の変化

横断歩道	実験前	実験中	増減	増減率
歩行者	728	974	+248	134%



※実験前：10月6日（金） 実験中：10月12日（木）

※ランチ時間帯：11時～14時

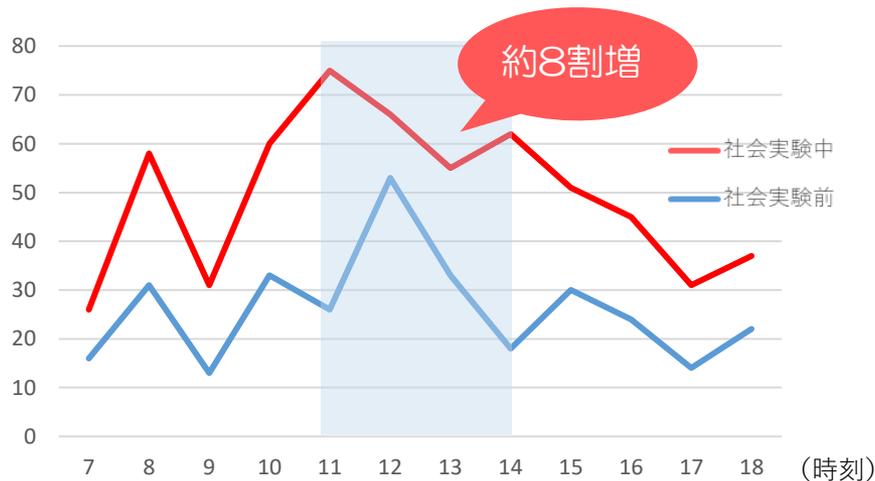
地下道利用者数の変化（西口から東口方向（休日））

- 地下道利用者数は、実験前と比較し、実験中で**約2倍**
- 実験中の時間当たりの歩行者交通量は、ランチ時間帯で**約8割増**
- 11時頃がピーク。その後も**急減することなく**多くの方が東口に来られた

12時間交通量の変化

横断歩道	実験前	実験中	増減	増減率
歩行者	313	597	+284	191%

(人) 時間当たりの歩行者交通量の変化



※実験前：10月9日（日） 実験中：10月22日（日）
 ※ランチ時間帯：11時～14時

公園周辺の歩行者交通量の変化（平日）

- ①の交通量は、実験前と比較し、**実験中で約2倍**
- ②③の交通量は、実験前と比較し、**約1～2割増**
- ランチ時間帯の①の交通量は、**実験中で約3倍**



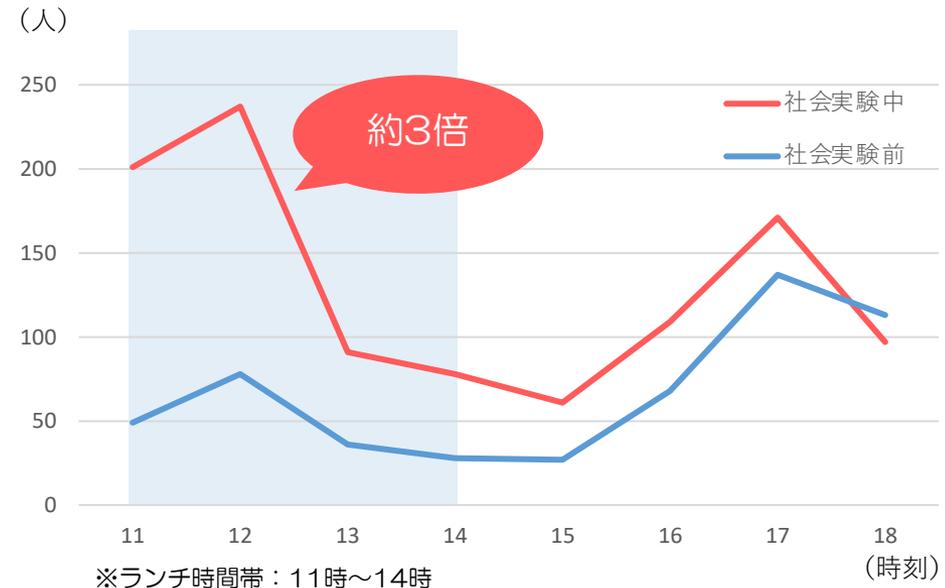
➡ 県道でランチを購入 → 公園で食事 → 仕事

交通量の変化

方向	実験前	実験中	増減	増減率
①	543	1045	+502	192%
②	777	937	+160	121%
③	453	495	+42	110%

※実験前：10月6日（金） 実験中：10月12日（木）

方向①の時間当たりの歩行者交通量の変化



※ランチ時間帯：11時～14時

公園周辺の歩行者交通量の変化（休日）

- ①の交通量は、実験前と比較し、**実験中で約7倍**
- ②③の交通量は、実験前と比較し、**約2~3倍**
- ランチ時間帯の①の交通量は、**実験中で約11倍**



➡ 県道でランチを購入 ↔ 公園で食事・イベント

交通量の変化

方向	実験前	実験中	増減	増減率
①	305	2273	+1968	745%
②	411	1279	+868	311%
③	300	785	+485	261%

※実験前：10月9日（日） 実験中：10月22日（日）

方向①の時間当たりの歩行者交通量の変化



2 東西連携や回遊性の調査結果

まとめ

地下道や公園周辺の交通量

- 地下道利用者数（西口から東口方向）は、実験前と比較し、**平日で約3割増、休日で約2倍**となった。ランチ時間帯は、**平日で約8割増、休日で約3倍**となった。
- 公園周辺の交通量についても同様の傾向があり、実験前と比較し**平日で約2倍、休日で7倍**となった。また、公園のテーブル・イスは休日のイベント時にはほぼ**満席**となり、音楽ライブを聞くことなど自由にゆっくりと飲食等（**滞留**）をしていたと考えられる。

3 賑わいや滞留の意向調査結果

調査対象者

- 賑わいの社会実験の来場者と出店事業者

調査方法

- HPでアンケートフォームを公開
- 現地でアンケートに直接アクセスできるQRコードを配布
- QRコードをキッチンカーに掲示、
チラシ・ポスター、現地に設置したテーブルに掲載

回答者数

- 来場者アンケート **626**人
- 出店事業者アンケート **37**人

3 賑わいや滞留の意向調査結果

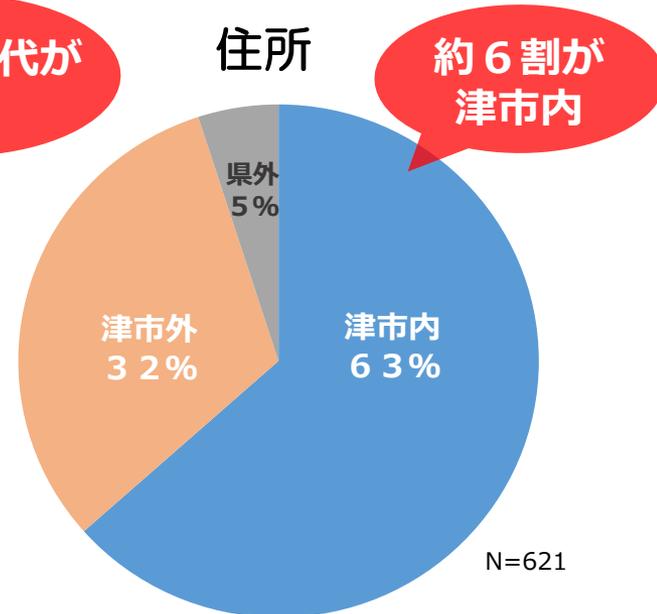
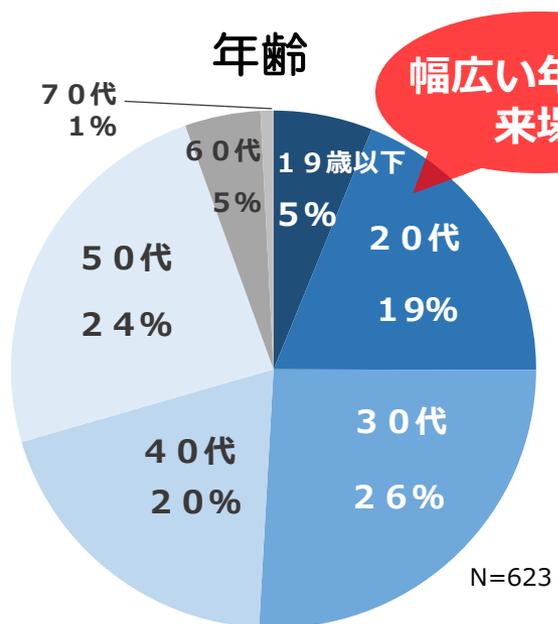
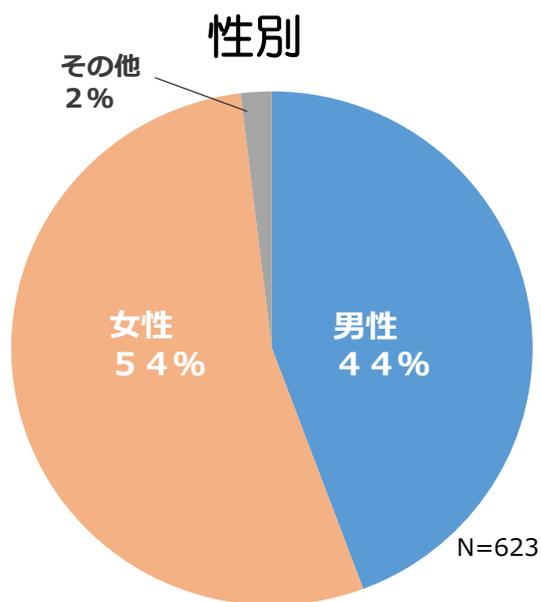
来場者用アンケート

年齢

幅広い年代が来場

住所

来場者の約6割が津市在住者



3 賑わいや滞留の意向調査結果

来場者用アンケート

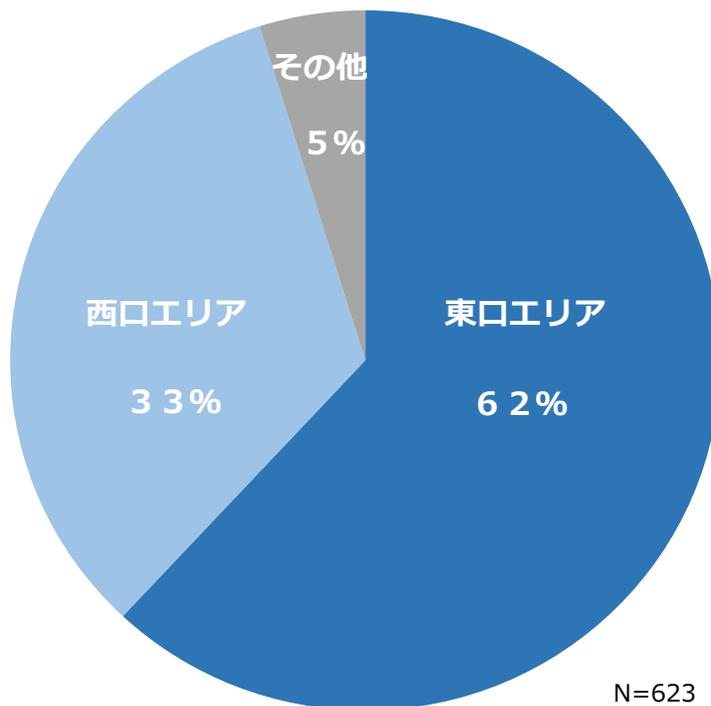
エリア

来場者の約6割が東口エリアから来場

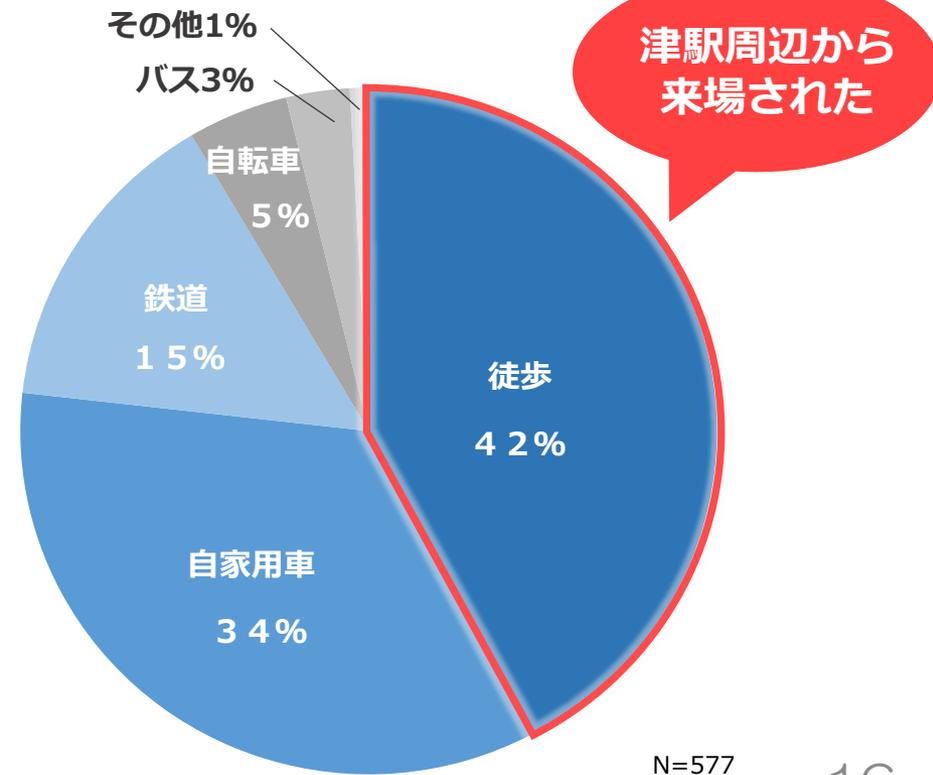
交通手段

約4割が徒歩での来場

エリアについて



交通手段



3 賑わいや滞留の意向調査結果

来場者用アンケート

利用回数

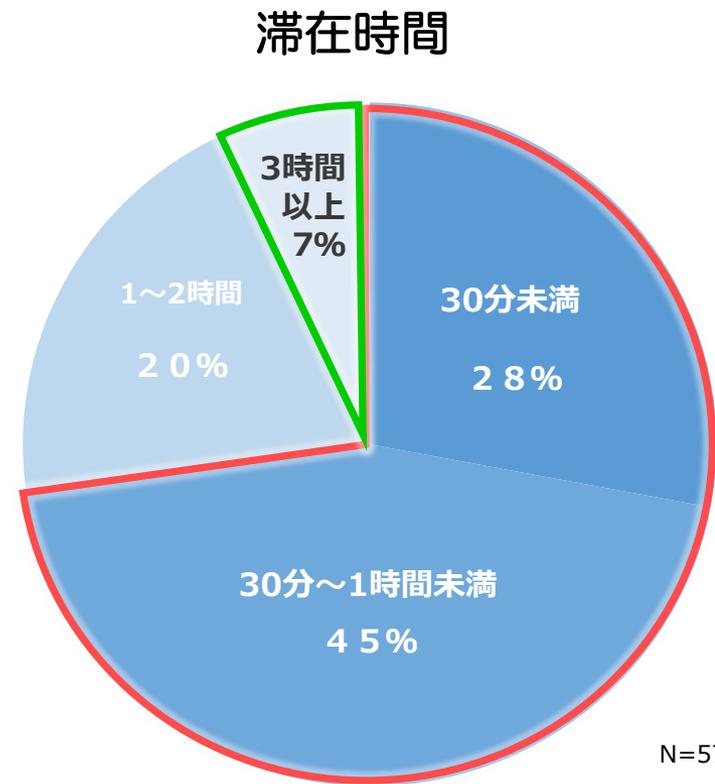
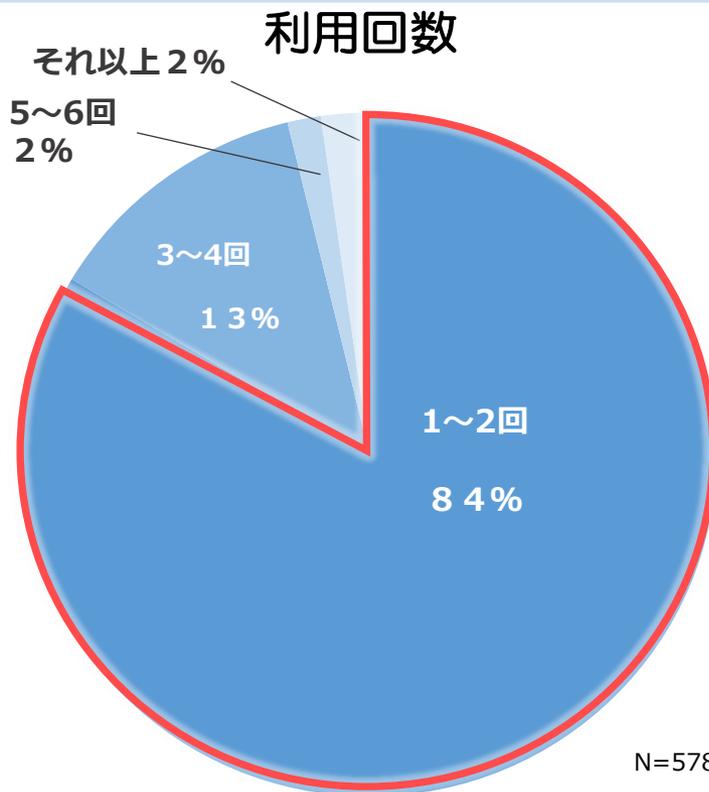
1～2回が約8割

滞在時間

1時間未満が約7割 →多くの方が持ち帰りの利用

3時間以上が約1割 →公園使用が滞留に影響あり

(前回調査の3時間以上1%未満から増加した)

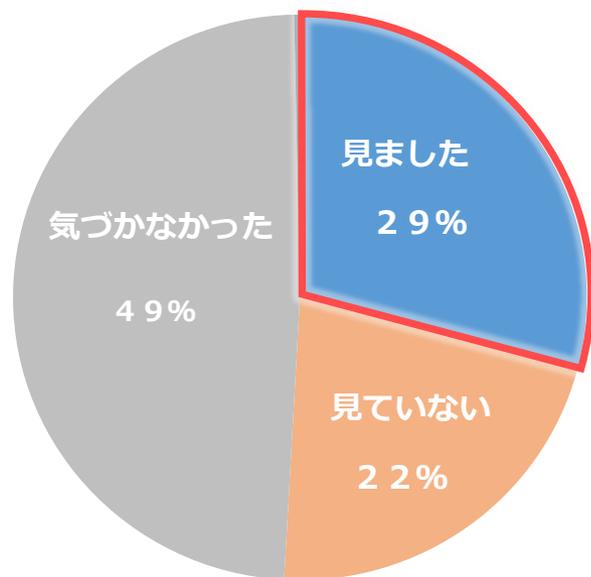


デジタルサイネージ

来場者の約3割がサイネージを見たと回答

また、約半数がサイネージについて気づかなかったと回答

デジタルサイネージを
見ましたか



N=625

西口にもサイネージがあり

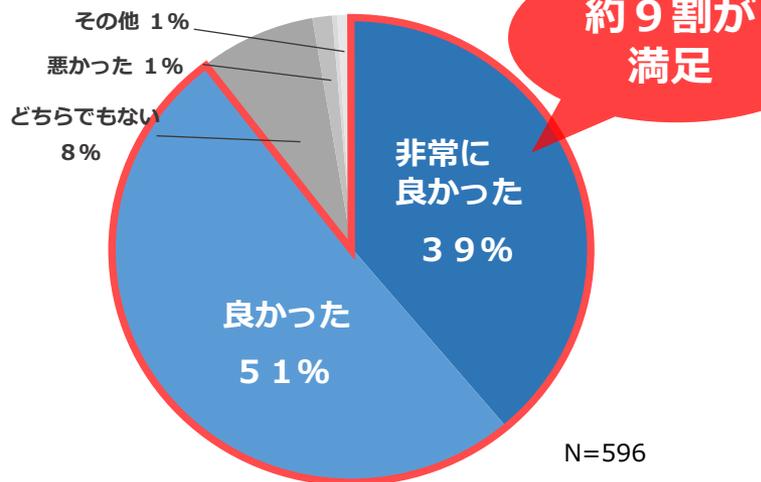
わかりやすかったとの声がある一方で

電源の関係から自由に設置ができず

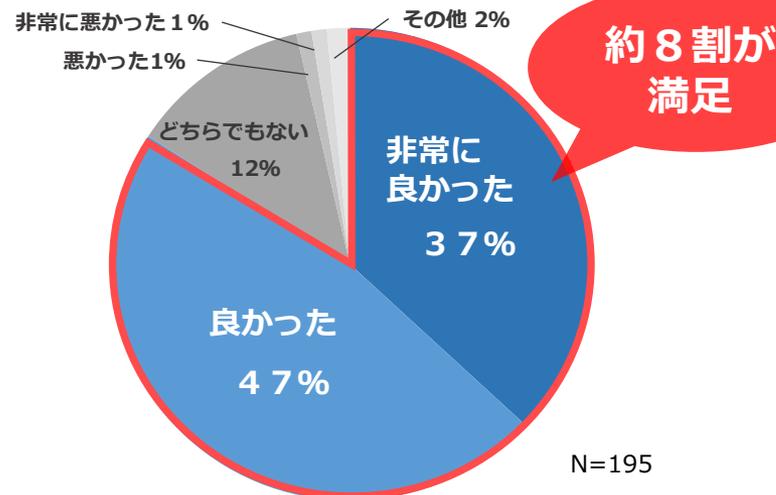
周囲に溶け込み、気づきにくかった



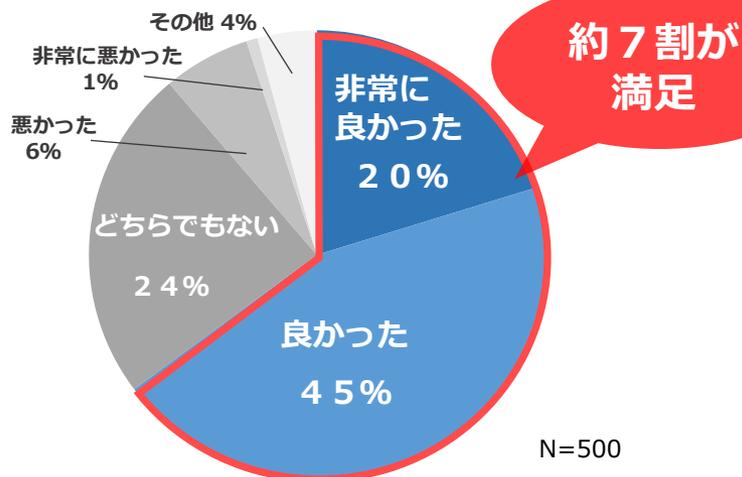
キッチンカー 物販の出店について



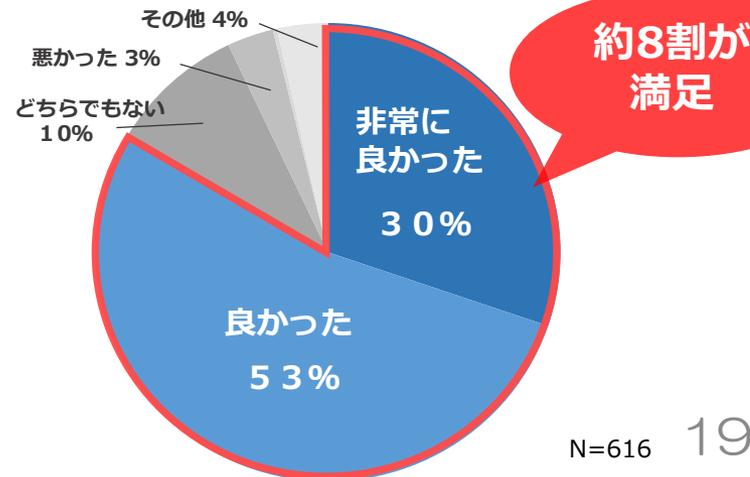
働くクルマ等の イベントについて



ベンチ・テーブル等について



栄町公園の使用について



3 賑わいや滞留の意向調査結果

事業者用アンケート

賑わいの社会実験

出店事業者の全員が満足と回答

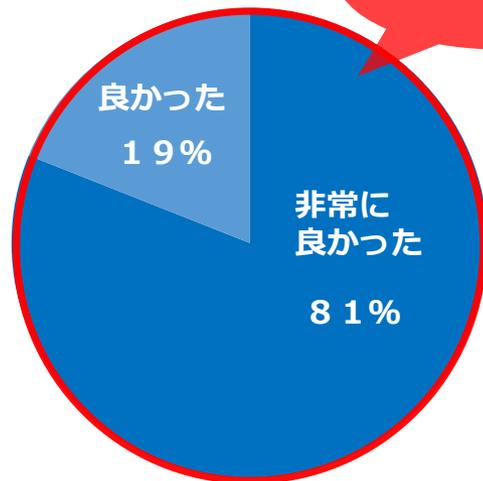
今後の出店意向

出店事業者の全員が出店希望と回答

このような取組

出店事業者の全員が満足と回答

賑わいの社会実験について



N=37

全員が満足

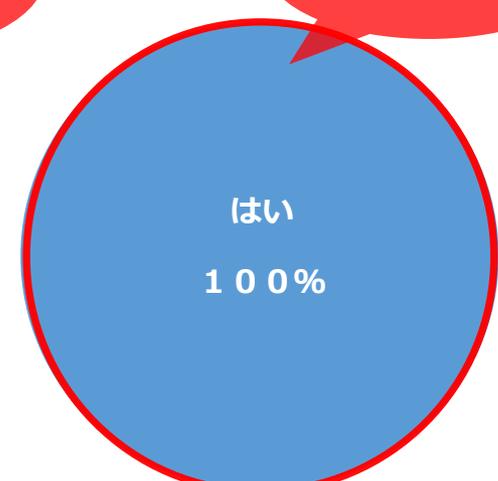
今後の出店意向について



N=36

全員が満足

今後の取組について



N=37

全員が満足

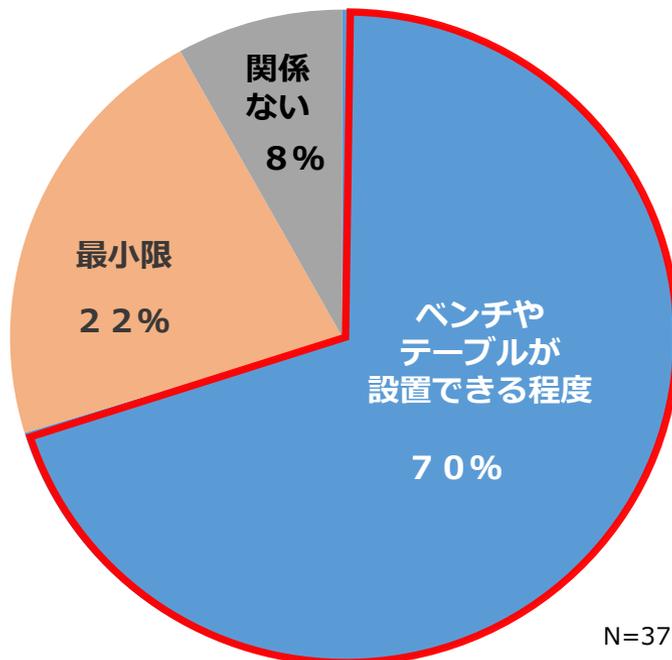
隣接事業者との距離

ベンチ等が設置できる程度の離隔が7割

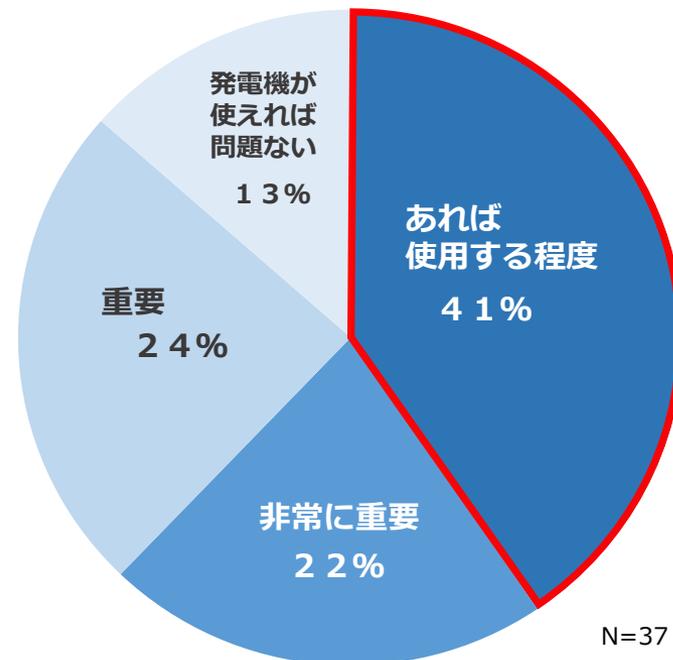
電源について

約4割があれば使用する程度と回答

出店事業者の配置間隔 事業者間の離隔について



電源について



来場者の主な意見

- 津駅前が賑やかで活気があるように感じた。継続・定着してほしい。
- 楽しかった。周辺店舗でも買い物や食事をした。
- 栄町公園のテーブル・イスでゆっくり過ごすことができ、良かった。
- 子どももすごく喜んでいた。駅前で家族連れが楽しめる土日イベントがあるのがとても嬉しい。実装が楽しみです。
- テーブル・イスの数が少なく、もっと欲しかった。
- キッチンカーの出店数が少なく残念だった。
- 日差しを遮る木陰がなかった。
- バリアフリー化（段差解消・タイルをやめる）をしてほしい。

近隣店舗の主な意見

- 賑わって良かった。数か月に1回実施してほしい。
- 楽しみにしていた。普段にないものが購入できて嬉しかった。
- 栄町公園でイベント（ミニライブ）の実施やテーブル・イス等を配置したことで、栄町公園の新たな使い方がわかった。
- キッチンカーで買った商品のゴミを沿線店舗のゴミ箱に捨てられた。
- 出店者のBGMの音量が大きく、うるさかった。

3 賑わいや滞留の意向調査結果

まとめ

- 社会実験には、幅広い年代が来場し、来場者の約4割が津駅周辺に在住の方や津駅周辺で働いている方と考えられる。
 - 来場者や事業者から満足との回答がほとんどだった。
 - 近隣店舗の方からも好評だった。
 - 栄町公園の使用について、8割以上が高評価であり、公園を使用したことで、滞在時間が延び、滞留が図れた。
-
- 一部のデジタルサイネージについて、歩道上に電源設備があれば、より効果的に配置でき、多くの来場者が利用できる。
 - 日差しを遮る木陰等があれば、より長く滞在できる。
 - バリアフリー化をすれば、来場者がより安全に利用できる。

3 賑わいや滞留の意向調査結果

まとめ

滞留に必要な要素

魅力のあるコンテンツ



日差しを遮る木陰やベンチ



効果的なデジタルサイネージ



賑わいや滞留機能の強化が可能

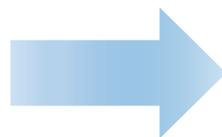
賑わいの社会実験に関する総合評価

まとめ

利活用の調査結果

東西連携や回遊性の
調査結果

意向調査結果



- 津駅周辺において面的な賑わいの創出が図れた
- 東西連絡通路の利用者数や駅周辺での滞留時間が増加

道路空間の再編に加え、公園を利用することで面的な賑わいの創出や東西連携、滞留機能の強化が可能

次年度の方向性について

次年度

- 社会実験の結果を踏まえ、歩道空間の拡張について、具体化（概略検討等）を進めます。



歩道空間の拡張イメージ 出展：三宮中央通りまちづくり協議会

第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会

津駅東口周辺まちづくり懇話会について

令和6年2月26日

津 市

1. 津駅東口周辺まちづくり懇話会

津駅東口周辺の「駅利用者の利便性、快適性の向上」、「賑わいの創出」、「回遊性の向上」、「まちの安全性の維持向上」などの意見交換を行い地域の熟度を高めることが重要

地域の方々から意見・希望などを出し合い、意見交換を行い、意見をとりまとめる

「津駅周辺道路空間再編検討委員会」へ伝え、魅力ある街づくりを目指す

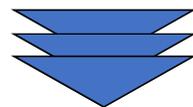
	開催日	議題	主な意見
第1回	令和5年9月12日(火) 16時から 会場:アスト津 4階	・会長、副会長の選出 ・懇話会の設立趣旨の説明 ・津駅周辺道路空間に係る検討委員会の情報共有	・タクシーと一般車両が共有している ・ロータリーが手狭で賑わいの創出に苦勞する ・県都の顔となるような整備が必要 ・バス停留所が、東口、西口に点在し観光バスや貸切バスなど含め、集約されていないため使いづらい
第2回	令和5年11月27日(月) 17時から 会場:アスト津 4階	・津駅周辺道路空間の主な課題の確認 ・社会実験(10月)の報告 懇話会と民間団体が共同で、津駅東口駅前広場の一部を活用した実験の開催を決定	・東口周辺に賑わいや滞留空間の不足 ・社会実験で賑わいのポテンシャルを確認 ・駅前に滞留空間が欲しいという声 ・民による実験の提案がある
実験	令和5年12月 22日(金)15時から21時 23日(土)11時から20時	懇話会と民間団体が共同で、津駅東口駅前広場の一部を活用した実験を実施 ・若者層をターゲットにした物販 ・仕事帰りにも寄れるような時間の設定	・駅前広場がないので、東口ロータリーを周辺ビルの建て替えと合わせて作り替え、憩える空間を作ってほしい。 ・学生が手軽に利用できる店舗(ファーストフード店など)が少ない ・待ち合わせできるスペースがない ・東西の動線が不便
第3回	令和6年2月13日 (火) 16時から 会場:アスト津	・12月実験結果の報告 ・津駅東口の賑わいや滞留空間など必要とする機能についての意見交換	・能登半島地震では津波到達までの時間が短かったことから身近にあった方が良い ・通勤通学以外の方の利用も多く、利用者に応じた賑わいを作り出すことが必要

2. 津駅東口の駅前における賑わい創出や滞留空間の実験①

■県道と公園の「賑わい創出の取組(社会実験)<10月11~22日>

アンケート結果(169人回答) ※懇話会においてアンケートを実施

- ・89%(151人)が栄町公園に**滞留スペース(テーブル、イス)**を設けることに**良い印象**
- ・169人から204件の複数回答により61%(125件)は**東口駅前広場**に、22%(45件)は**西口駅前広場**に、**滞留スペース(テーブル、イス)**が欲しい
- ・169人から394件の複数回答により26.1%(103人)が**オープンカフェやキッチンカー**などを、25.6%(101人)が**イベントなどの賑わい**が**津駅周辺に必要**



懇話会と民間団体が共同で、津駅東口駅前広場の一部を活用した実験の開催を決定

日時：12月22日(金) 15時~21時

23日(土) 11時~20時 ※12月21日(木)は強風のため中止

場所：津駅東口の駅前広場内タクシー待合場及び一般駐車場の一部

目的：若者層をターゲットにした人気のスイーツなどの物販を設置、更に、時間帯を21時までとすることで、仕事帰りの方々も含め、賑わいと滞留空間の必要性や可能性の確認する。

内容：若者層に人気のスイーツや温かい食べ物や飲み物などの販売
クリスマスツリーの設置、テントや机・イスの設置

賑わいや滞留の状況



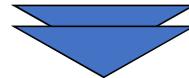
2. 津駅東口の駅前における賑わい創出や滞留空間の実験②

来場者の意見

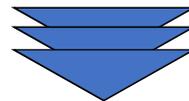
- ・学生が手軽に利用出来るようなチェーン(ファーストフード)店が少ない。
- ・待ち合わせなどの際に椅子がない。
- ・東西の動線が不便。
- ・県庁所在地なのに、寂しい。
- ・たまにしか来ないが、寂しい感じ。何か楽しいイベントをやったら、人が集まると思う。
- ・津駅前が活気づくとうれしい。
- ・駅前広場がないので、根本的には東口ロータリーを周辺ビルの建て替えと合わせて作り替え、憩える空間づくりをしてほしい。



津駅東口周辺に賑わいや待ち合わせ場所などの滞留空間が不足していることや、駅前空間の再編に対する期待など、利用者(来場者)から多数の意見



賑わいや滞留空間など東口に必要



第3回 懇話会(令和6年2月13日)

➤賑わいや待ち合わせ場所などの滞留空間を、津駅東口駅前広場へ機能としての必要性を「津駅周辺道路空間再編検討委員会」へ訴えていくこととした。

4. 組織

津駅東口周辺まちづくり懇話会 委員名簿

				(組織名50音順) (敬称略)
				任期: 令和5年9月12日～令和7年9月11日
NO.	区分	組織名等	役職等	氏名
1	商業団体	津駅前ストリート倶楽部	会長	アオヤマ ハルキ 青山 春樹
2		津駅前通り商店街振興組合	代表	オノ キンイチ 小野 欽市
3	地権者 商業者 地場企業	株式会社百五銀行	津駅前支店 次長	ヤマグチ ヨシマサ 山口 喜正
4		三交不動産株式会社	総合企画室 部長	サルキ ダイスケ 猿木 大介
5		津駅前都市開発株式会社	代表取締役専務	アラキ タダノリ 荒木 忠徳
6		ドーミーイン津	支配人	モリタ シロウ 森田 士郎
7		名古屋ステーション開発株式会社	津支店長	タケウチ タク 竹内 卓
8		野村証券株式会社	津支店 総務課長	サカモト カツヒコ 坂本 勝彦
9		風月堂	代表取締役	イワワキ マサナオ 岩脇 正尚
10	地元 自治会	南立誠地区自治会連合会	会長	イツチ ミキノリ 井土 三喜徳
11		栄町3丁目北自治会	会長	アオキ サトル 青木 悟
12		栄町3丁目南自治会	会長	アサオ ヤスヒロ 浅生 康裕
13		羽所町第1自治会	会長	タニグチ フミオ 谷口 文雄

※令和5年9月12日現在

構成組織等

商業団体

地権者

地元自治会

商業者

地場企業

事務局
(津市)

市

まとめた地域の
意見・希望など

津駅周辺道路空間再編検討委員会

- ・道路空間再編(県道の賑わい創出)
- ・交通結節点の機能強化検討(駅前広場など)

国

県

市

津駅東口周辺において魅力
あるまちづくりを目指す

第2回

津駅周辺道路空間再編検討委員会

津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議について

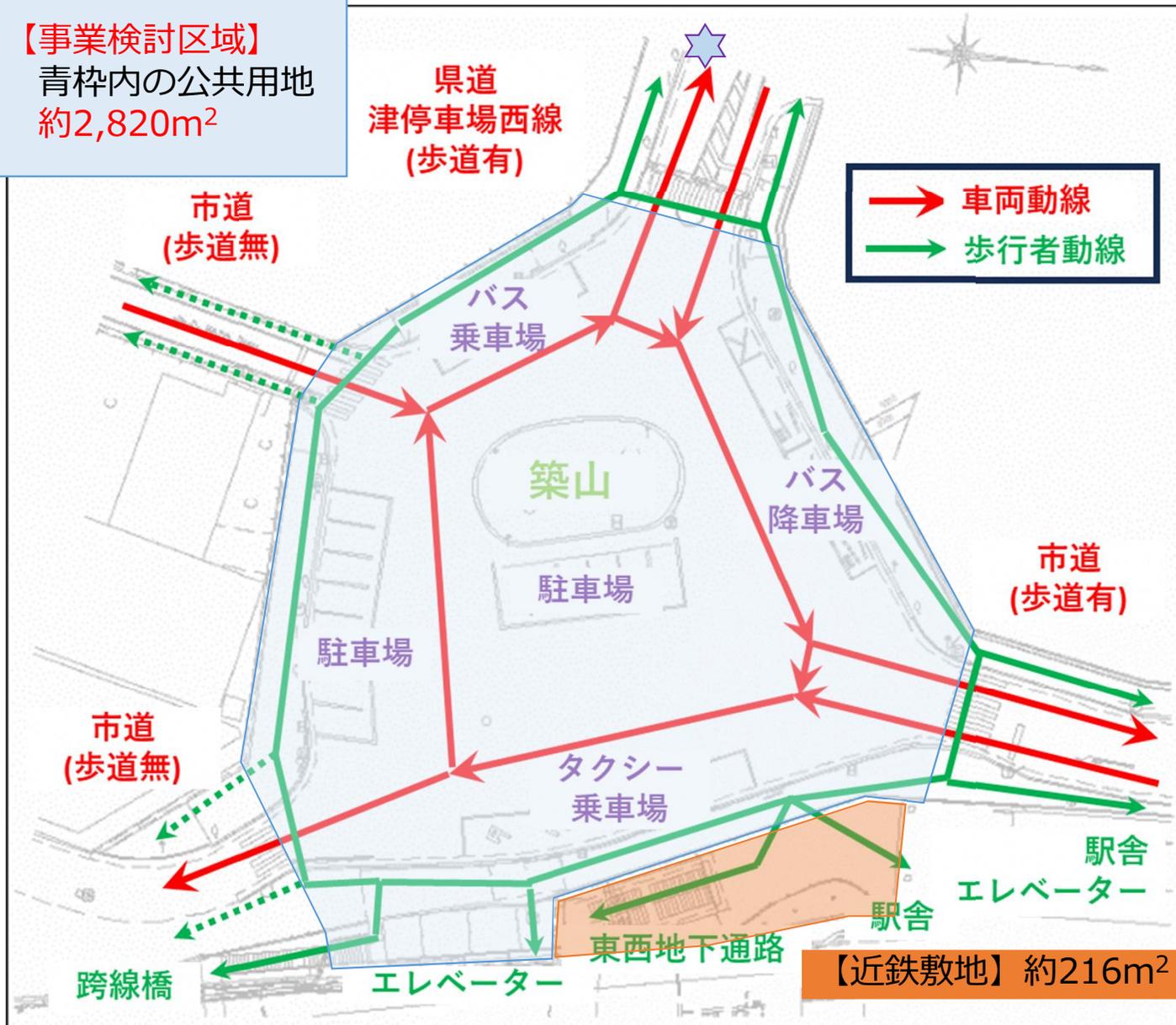
令和6年2月26日

津市

1-1. 津駅西口駅前広場の状況

【事業検討区域】

青枠内の公共用地
約2,820m²



施設	規模	内容
バス乗車場	1ヶ所	1台停車
バス降車場	1ヶ所	2台並列
タクシー乗車場	1ヶ所	4台並列
駐車場	14台分	コインパーキング
車道		築山中心に一方通行
歩道		広場の周囲
築山	1ヶ所	
跨線橋(歩道橋)	1本	通行止め
EV	1ヶ所	地下通路に接続
地下通路	1本	
スクールバス乗車場	1ヶ所	県道津停車場西線

市有地内

近鉄敷地

路線バスの状況

7系統 発計 平日99便(土休日73便)
着計 平日98便(土休日73便)

スクールバス(西高、看護大学)の状況

朝 11本 ※広場外 ☆
夕 状況に応じて運行

その他のバス

- ・総文でのイベント時に臨時バスが運行 ※広場外 ☆
- ・高田学園のバスの乗り入れ有

1-2. ロータリー内等の実態

津駅西交差点の渋滞の列がロータリー内まで伸びている



夕方を中心にロータリー内に無秩序に車両が滞留



バスがダイヤ調整のため別の箇所に停車



駅舎エレベーターからロータリーへの歩道幅員が狭い
(車椅子の通行困難)



2. 交通量調査実施

【実施日】 令和4年11月8日 (火)

この横断歩道で7:50~8:00に
約15人/分が横断しバス停方向
(スクールバス含む)へ

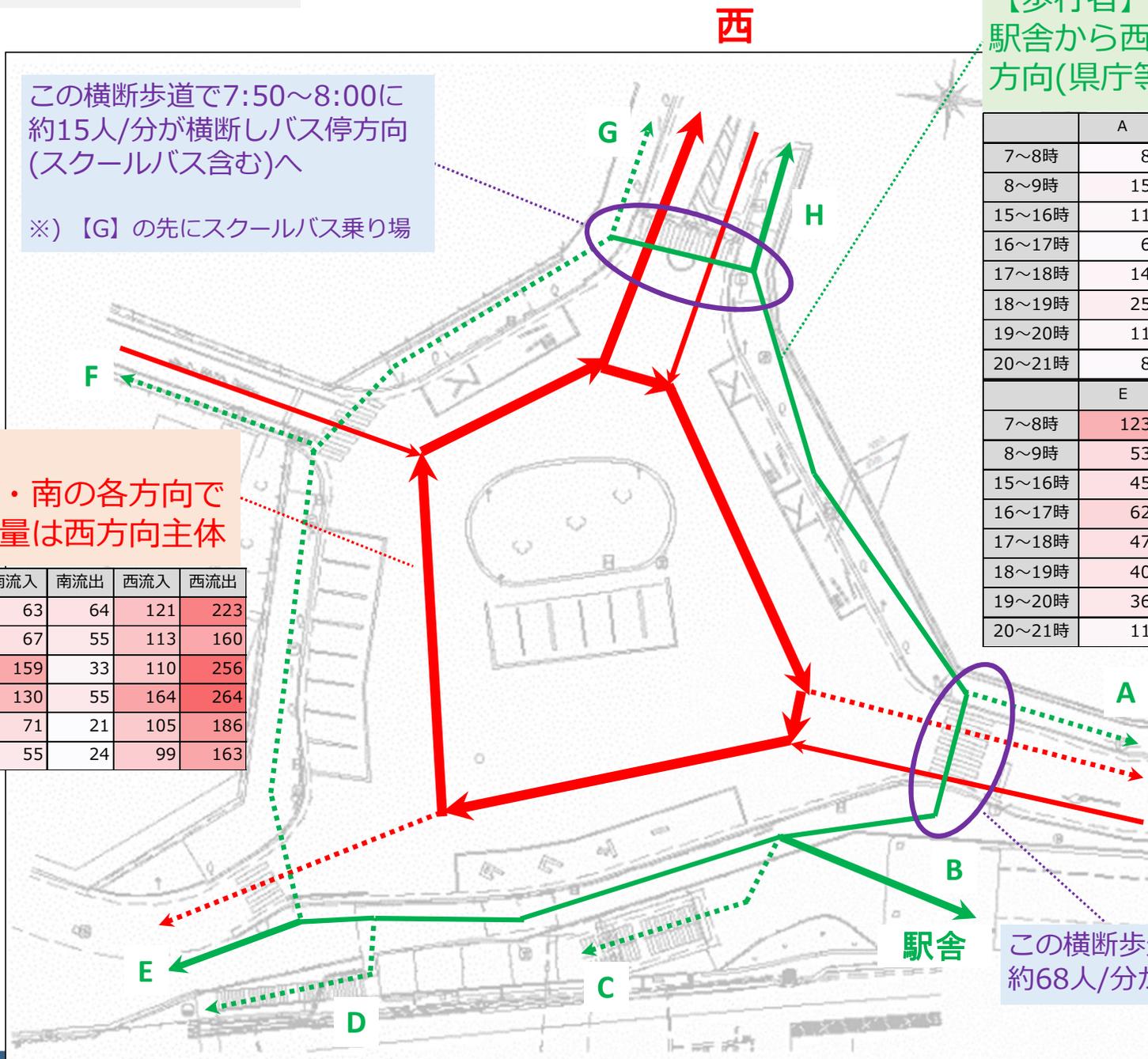
※) 【G】の先にスクールバス乗り場

【歩行者】
駅舎から西方向(学校等)、南
方向(県庁等)の交通量が多い

	A	B	C	D
7~8時	80	2395	262	23
8~9時	158	2229	202	19
15~16時	112	545	248	11
16~17時	60	1043	289	19
17~18時	143	1209	302	64
18~19時	256	1109	232	71
19~20時	111	849	137	120
20~21時	83	493	96	46
	E	F	G	H
7~8時	1239	450	37	612
8~9時	531	349	68	822
15~16時	453	60	31	125
16~17時	627	205	32	210
17~18時	472	162	47	497
18~19時	409	190	52	416
19~20時	364	124	34	440
20~21時	114	72	39	434

【車両】
流入量は北・西・南の各方向で
ほぼ均等、流出量は西方向主体

	北流入	北流出	南流入	南流出	西流入	西流出
7~8時	116	31	63	64	121	223
8~9時	99	81	67	55	113	160
17~18時	87	45	159	33	110	256
18~19時	127	50	130	55	164	264
19~20時	51	39	71	21	105	186
20~21時	54	31	55	24	99	163



この横断歩道で7:50~8:00に
約68人/分が横断

3. WEBアンケート実施

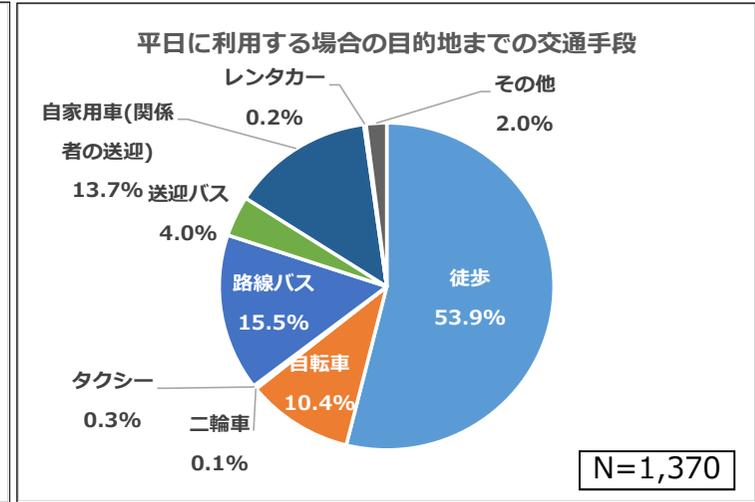
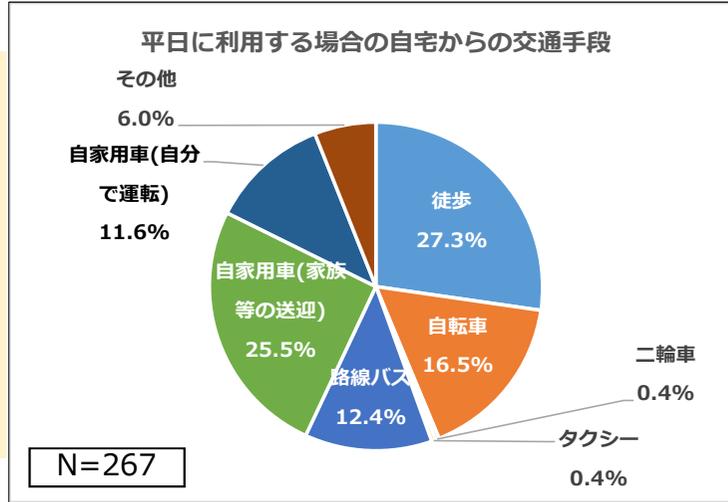
■実施概要

【期間】令和5年1月11日(水)～1月24日(火)

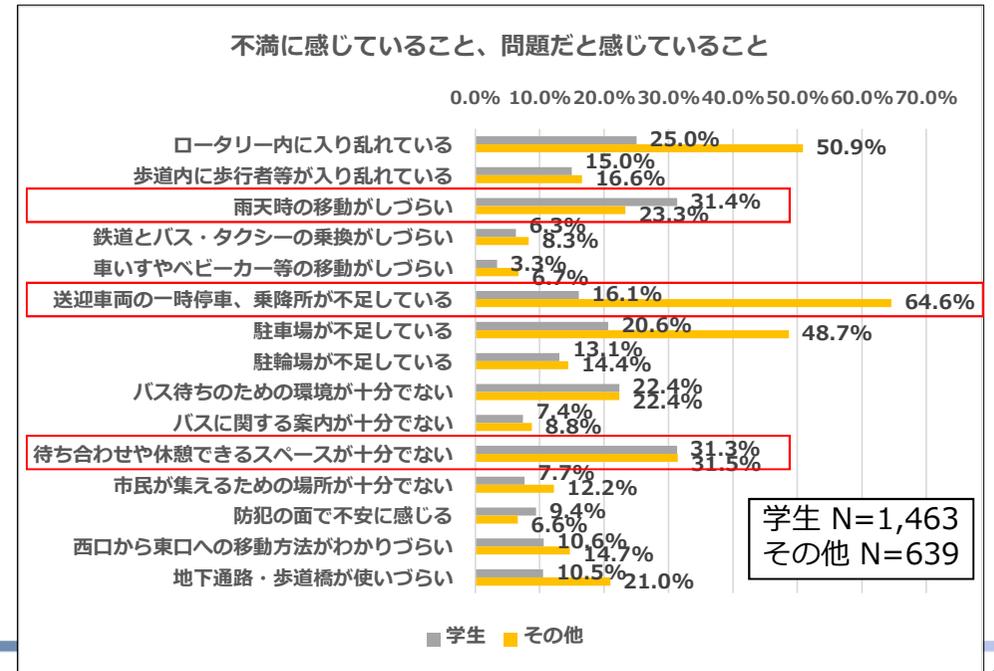
【実施方法】津駅西口利用者にQRコードを記載したチラシを配布し、スマートフォン等で回答いただいた。

【回答者数】2,144人(WEBによる回答は2,089人、補足的に実施した聞き取り調査の回答者数55人を含む)

- 自宅から津駅の交通手段は徒歩が約27%、自家用車送迎が約26%
 - 津駅から目的地への交通手段は、徒歩が約54%
- ※いずれも平日



- 回答者の過半数は学生(高校生以下)
- 学生は雨天時の移動がしづらいと回答が最も多い(約31%)
- その他(学生以外)では送迎の一時停車、乗降場所が不足しているとの回答が最も多い(約65%)
- 待ち合わせや休憩できるスペースが十分でないとの回答は、学生、その他とも比較的多い(約31～32%)



4. 課題から基本方針へ

■ 津駅西口広場における課題

A-1. 喫緊の課題解決と中長期的なまちづくりの切り分け

A-2. 実施中のプロジェクトとの整合

B-1. 交通実態(送迎車及び歩行者)を踏まえた交通流の秩序化

B-2. 各交通特性を踏まえた乗降場所及び動線設定

B-3. 快適かつ利便性の高いバス・タクシー乗降場の確保

B-4. バリアフリーや歩行者交通量を踏まえた適切な歩道幅員

C-1. 自転車駐輪需要、自動車交通量、大型送迎車両のコントロール

C-2. 駐車場も含めた低未利用地の積極的活用

C-3. ロータリー周辺地域を巻き込んだまちづくり

C-4. にぎわい創出や交通流秩序化のための仕組みづくり

■ 津駅西口広場再編の基本方針

【基本方針1】 即効性かつ連続性のある西口駅前広場の再編

① 必要最小限の施工で最大限の効果を得られる対策

② 大谷踏切拡幅や中長期的なまちづくりを見据えた連続性のある施策展開

【基本方針2】 安全性と利便性を確保した交通流動の秩序化

(1) 公共車両(バス・タクシー)と私的車両(送迎車等)の分離

① 公共車両と私的車両の動線分離による交通の秩序化

② 車両の流入出の傾向を踏まえた動線設定

(2) 乗降場所及び歩行者動線の最適化

① 送迎車両停車位置及び送迎車両乗降客の動線の秩序化

② バス乗り場の鉄道からの乗継に駅舎に近い位置への移設

③ バス及びタクシー乗り場における必要な滞留空間の確保等による環境改善

④ スクールバス乗り場移設によるロータリー北側歩道の交通量削減

⑤ 歩道幅員の拡幅によるバリアフリー動線の確保

【基本方針3】 マネジメントの視点による駅前広場全体の最適化

① 津駅西第一公共自転車等駐車場機能の低・未利用地への移設による自転車交通量の抑制

② 自家用車の公共交通等手段への転換によるロータリー内への流入抑制

③ 企業や学校のバス車両を用いた送迎車両の状況把握及び運営管理

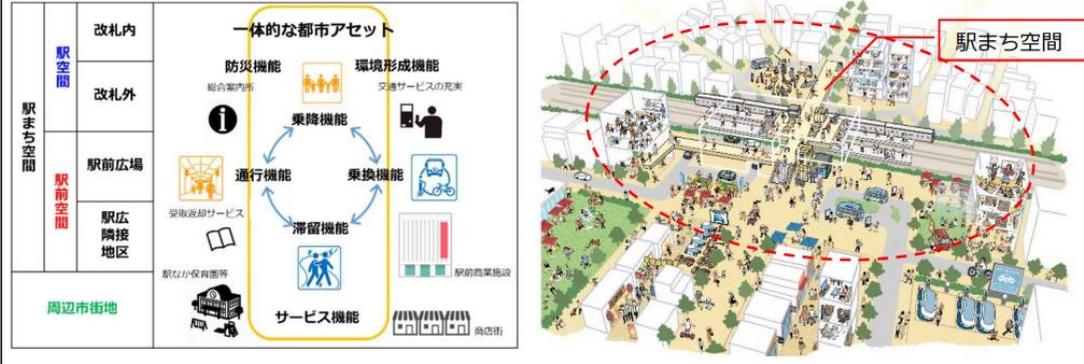
④ 周辺施設管理者との協議実施のための組織設立

5. 津駅西口駅前広場のあり方

■ 本来の駅前広場の目指すべき方向性

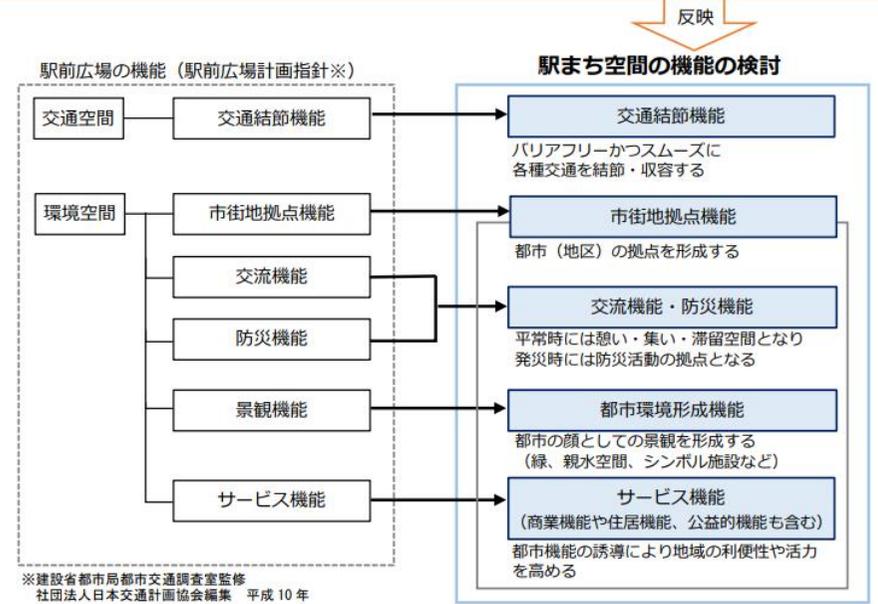
※駅まちデザインの手引き〔国土交通省 駅まちデザイン検討会〕

- 利用者目線に立ち、所有区分等を越え、駅まち空間にある都市アセットを一体的に捉えて、関係者が連携し、計画・整備・管理運営を行っていくべきである。
- ユニバーサルデザインやバリアフリーへの配慮、都市機能の集約と良質なオープンスペースの確保、「居心地が良く歩きたくなる」空間の形成等に配慮するべきである。



※駅まちデザインの手引き P2-2

- ①都市における駅まち空間の成り立ちの経緯（中心市街地との位置関係、歴史的背景など）
- ②上位計画・関連計画
（都市計画マスタープラン、立地適正化計画、都市・地域総合交通戦略、地域公共交通計画など）
- ③社会動向・市民ニーズ など



※駅まちデザインの手引き P3-17

■ 周辺地域を含めた津駅西口駅前広場のあり方

- **短期的には**安全性及び利便性に寄与する**交通空間の確保を最優先**とし、環境空間の確保は**中長期的に**東口や東西自由通路の整備や周辺のまちづくりと連携して検討する。 ⇒ **【基本方針1】 【基本方針2】**
- 課題解決のための広場再編と**同時に**、駅まちデザインの5原則※)を踏まえ、**連携・共有の観点による仕組みづくり**も行う。 ⇒ **【基本方針3】**

※) 駅まちデザインの5原則

- ①多様な主体の連携
- ②ビジョンの共有
- ③空間の共有
- ④機能の連携
- ⑤一体的で柔軟な運営

6. 【基本構想】基本方針を受けての着目点

➤ 基本方針に従い、駅前広場の基本構想を検討

【基本方針1】即効性かつ連続性のある西口駅前広場の再編

構造物の設置は
最小限に

【基本方針2】安全性と利便性を確保した交通流動の秩序化

(1)公共性の高い車両と私的車両の分離

(2)乗降場所及び歩行者動線の分離

①まずは現状のレイアウト
を基本方針に沿う形で改変

②交通の**整序化**を図るための効率的な乗降場等の利用方法やルールを定め、乗降場等の施設を適切に運営していく仕組みを作ることが重要

【基本方針3】マネジメントの視点による駅前広場全体の最適化

(1)津駅西第一公共自転車等駐車場機能の
移設による自転車交通量の抑制

(2)自家用車の公共交通等他手段への転換
によるロータリー内への流入抑制

(3)企業や学校のバス車両を用いた送迎車
両の状況把握及び運営管理

これらを実現する
ためには関係者との
合意形成が必要
不可欠

(4)周辺施設管理者等との協議
実施のための仕組みづくり

関係者の合意のもとで駅前広場の運用
のルールを策定する目的で、新たに組
織体を設立

【エリアマネジメント会議の設立】

7-1. 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議

各交通事業者が乗降場等の適正な利用や管理を行えるよう、主体的に管理運営方法を検討し、駅前広場の交通の秩序化を図り、魅力的かつ快適なエリア構築を目指すことを目的に、会議を設立。

エリアマネジメント会議

交通事業者

地元自治会

交通管理者

学識経験者

道路管理者

行政

その他地権者

【利用対象毎に部会】

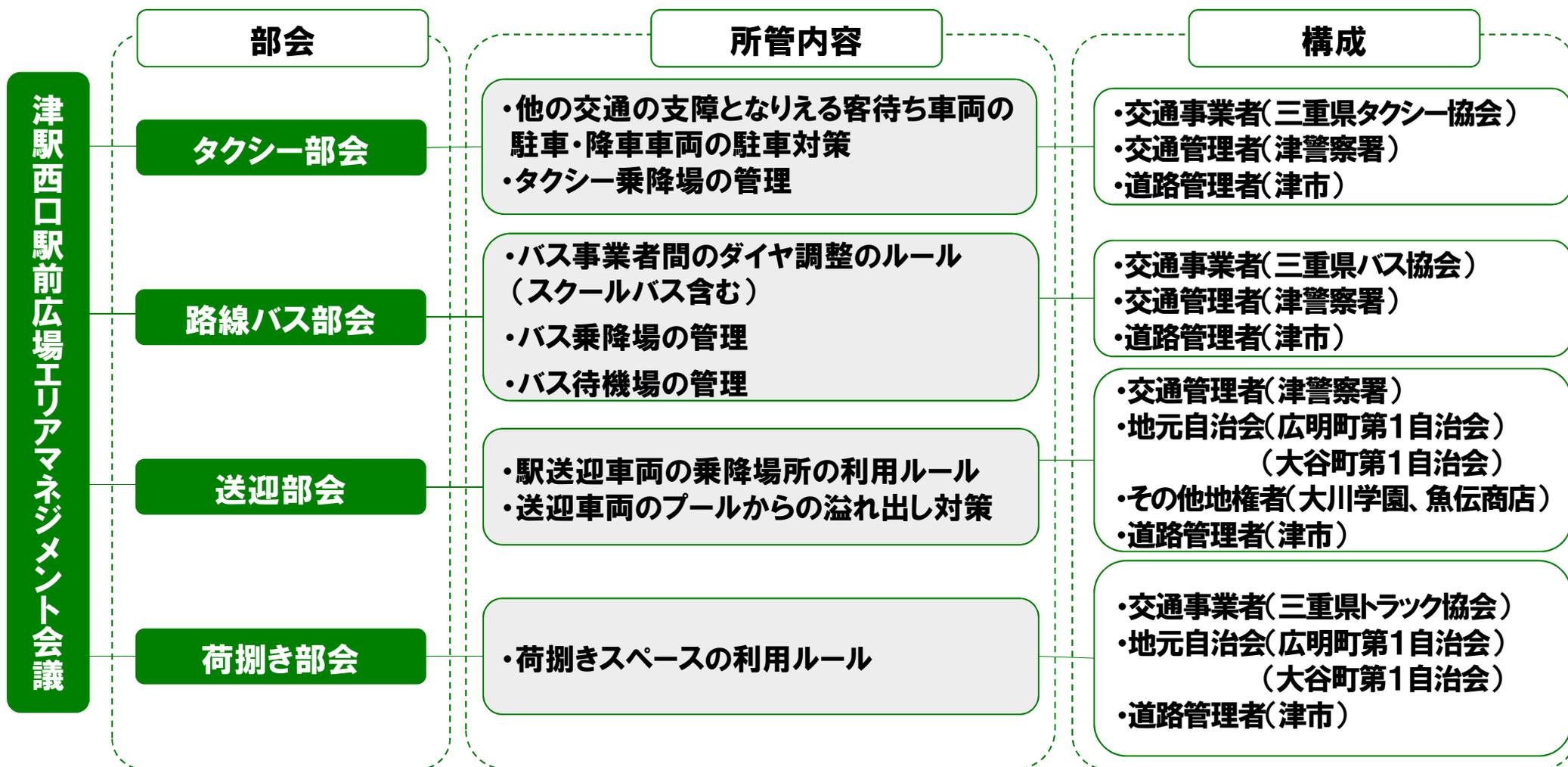
利用対象	交通施設
路線バス・ スクールバス	バス停留所、停留するバス停車帯
タクシー	乗車バス・降車バス
送迎車両	自家用車の乗降バス
荷捌き車両	荷捌き用停車スペース

【構成組織等】

分野	組織名	氏名
交通事業者	三重県タクシー協会	江並 史朗
	三重県トラック協会	事務局長 稲垣 晃
	三重県バス協会	乗合実務委員会 委員長 増田 浩士
交通管理者	津警察署	交通第一課交通規制係長 福富 孝司
道路管理者	津市	建設政策課 副参事 谷中 勝則
その他地権者	大川学園	理事長 大川 将寿
	株式会社魚伝商店	青木 幹夫
地元自治会	大谷町第1自治会	会長 中島 義行
	広明町第1自治会	会長 笠間 哲治
学識経験者	三重短期大学	教授 小野寺 一成
行政	国	三重河川国道事務所 副所長 毛利 勇
	三重県	県土整備部道路企画課 企画調整班長 山室 明

7-2. 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議

会議の構成



津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議

7-3. 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議の経緯①

第1回 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議

開催日：令和5年9月13日(水) 会場：アスト津

内容：会議設立趣旨等の説明、基本方針の確認

第1回部会

部会	交通の整序化を図るための主な意見	対応策
タクシー部会 【R5.11.16(木)】	<ul style="list-style-type: none"> ・築山、パーチケを撤去して空間を生み出しては ・障がい者が利用されるため駅舎付近に必要 ・乗り降り場は現状付近に残し、降車場を明確に 	反映 反映 反映
荷捌き部会 【R5.11.24(金)】	<ul style="list-style-type: none"> ・北側道路の両側に停車し他の車両に影響、片側に空間を ・北側道路(駅舎前)の歩道が狭い ・荷捌き停車の時間規制をかけては ・パーチケを撤去し、横断歩道や歩道を広げては 	反映 反映 継続協議 反映
送迎部会 【R5.11.24(金)】	<ul style="list-style-type: none"> ・バス待ち客が北側道路まで並び、歩道内が歩きづらい ・歩行者と車を分離、例えば2階へ歩行者デッキを設置 ・県道のスクールバス乗り場をロータリー内へ ・歩道の樹木を撤去し空間の確保を ・幼稚園バスや送迎は、安全確保のため一方通行のルール 	反映 継続協議 反映 反映 継続協議
路線バス部会 【R5.11.24(金)】	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス停車で走行に影響、バス待ち客で歩道へ影響 ・ロータリー南側にバス乗り場を設け、バス待ち客の空間を ・降車場は交通事情等で最低2台分は必要 ・バス停の屋根が欲しい ・パーチケは必要ない 	反映 反映 反映 継続協議 反映

➡ それぞれの意見を配置計画へ反映させることとした。
 ただし、利用方法の調整が必要な事項等については、継続協議とした。

7-4. 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議の経緯②

第2回 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議

開催日：令和5年12月20日(水) 会場：アスト津

内容：基本構想、配置計画を示す。

交通の整序化を図るための主な意見

➤ロータリー内の中に横断歩道は危険では

➤時間帯で大きな差があるので、一方通行や進入禁止など時間制限をかけてはどうか

➤朝・夕の時間帯で一般車両の乗降場は、駐車枠が少ないのではないか

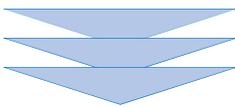
➤偕楽公園の駐車場を朝開放して乗降場所にしてはどうか

➡ その解決策には慎重な検討が必要なことから、各部会で、さらに議論を深めることとした。



第2回部会 ※現在、協議中

内容：各部会において、それぞれの視点からの課題事項など協議。



第3回 津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議

開催日：令和6年3月中旬開催(予定)

内容：基本構想、配置計画の確認

8. 今後の進め方

津駅西口駅前広場エリアマネジメント会議については、

交通の整序化を図るための効率的な乗降場等の利用方法やルールを定め、乗降場等の施設を適切に運営していく仕組みを作る。また工事期間中における利用方法等も検討していく。

令和6年度

- ・ 西口駅前広場

賑わいの創出及び東西自由通路の接続なども含めた整備計画の検討を進める。

- ・ 東西自由通路

賑わいや滞留する空間の創出なども含めた概略設計の検討を進める。

- ・ 駐輪場(津駅西第一・二公共自転車等駐車場)

西口駅前広場の自転車等の流入出を減らすことと、駅周辺の景観等も踏まえ、更に社会情勢や市民ニーズも踏まえた概略設計の検討を進める。

第2回 津駅周辺道路空間再編検討委員会

次年度以降の検討について

令和6年2月26日
三重河川国道事務所・三重県・津市

1. 津駅周辺道路空間再編検討委員会における検討経緯

「津駅周辺道路空間再編検討委員会」

- 本検討委員会では、専門的な知見等から幅広く意見聴取を行い、令和4年3月に策定した「津駅周辺道路空間の整備方針」の具体化を行っています。
- 本日、第2回検討委員会では整備方針の具体化に向けての調査や実証実験を行い、事業化に向けた取組の報告を行いました。

令和4年3月

津駅周辺道路空間の整備方針 公表

令和4年7月

第1回

- ● ●
- これまでの検討経緯
- 今年度の検討方針
- 津駅周辺道路空間
- 社会実験実施概要

令和5年2月

第2回

- ● ● ●
- 賑わいの社会実験の結果について
- 今後の検討内容とアンケート報告
- 津駅西口広場について
- 今後の進め方

令和5年8月

第1回

- ● ● ●
- これまでの検討経緯
- 今年度の検討方針
- 交通拠点に求められる機能調査（交通実態調査・人流データ分析）について
- 津駅周辺道路空間における賑わい創出の取組
- 津駅西口広場について

今回

第2回

- ● ● ● ●
- 交通拠点に求められる機能調査（交通実態調査・人流データ分析）について
- 賑わい創出の取組結果について
- 津駅東口周辺まちづくり懇話会について
- 津駅西口エリアマネジメント会議について
- 次年度以降の検討について

- 津駅周辺道路空間における賑わいの社会実験（R4/10/19～10/30）
- 津駅利用者アンケート調査（R4/12/28～R5/1/12）
- 津駅西口駅前広場を対象とした津まつりアンケート調査（R4/10/9）
- 交通量調査（R4/11/18）

- 津駅周辺道路空間における賑わいの社会実験【県道、栄町公園】（R5/10/11～10/22）
- 民間による津駅東口駅前広場空間を活用した実験（R5/12/21～12/23）

津駅周辺道路空間検討委員会

津駅周辺道路空間再編検討委員会

構成員	<p>学識者：小野寺一成 教授（三重短期大学）【委員長】、中平恭之 教授（近畿大学工業高等専門学校）</p> <p>交通関係者：三重県トラック協会、三重県バス協会、三重県タクシー協会、東海旅客鉄道株式会社、近畿日本鉄道株式会社、三重交通株式会社</p> <p>経済関係者：津商工会議所女性会、津市観光協会、津駅前通り商店街振興組合、津駅前ストリート倶楽部</p> <p>行政関係者：国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 所長、三重県県土整備部 部長、津市 都市計画部長、建設部長、商工観光部長</p>
-----	---

2. 今年度のとりまとめ

- 今年度は、県道津駅前線と栄町公園における津駅前道路空間の賑わい創出の社会実験、津駅前地区の移動ニーズを把握するための人流データ分析や、各交通モード間の乗換動線等を把握するための交通実態調査を実施、東口では地域の意見をまとめる会議を設立し意見交換を実施、西口では駅前広場の交通の整序化を図るための会議を設立し意見交換を実施。
- 調査・検討結果を踏まえ、交通拠点の課題や機能強化の必要性をとりまとめる。

西口広場

- 交通の整序化を図り、魅力的かつ快適なエリア構築を目指すための会議を設立（次年度以降も継続）

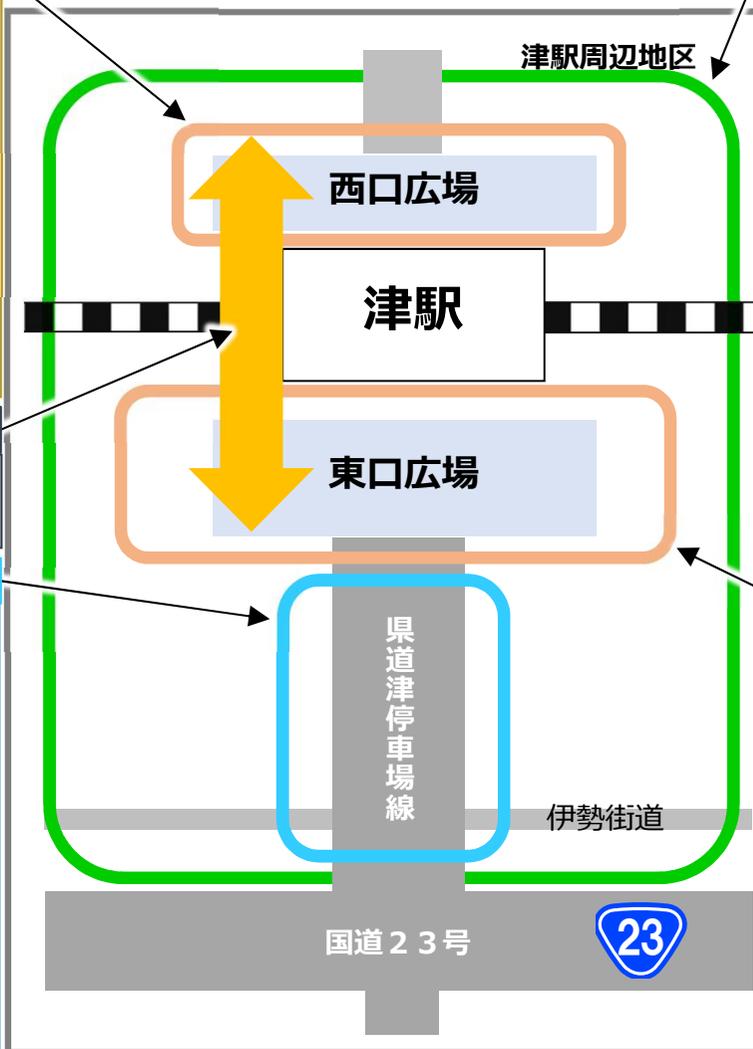


東西自由通路

- 東西自由通路の事業主体が津市に決定
- 東西自由通路の事業手法について研究

津駅前道路空間 賑わい創出の取組

- 県道津駅前線と栄町公園で賑わい創出の取組を実施（キッチンカー等の出店、滞留のためのテーブル・イスを配置）
- 東西連携や回遊性を高める、デジタルサイネージを設置
- 「東西連携や回遊性の調査」、「賑わいや滞留の意向調査」等を実施



交通拠点に求められる機能調査

- 交通実態調査
 - ・ 歩行者流動の面的、時間傾向の把握
 - ・ バス利用のピーク人数の時間、利用傾向の把握
 - ・ タクシー利用のピーク時間、利用人数の把握
- 人流データ分析
 - ・ 顕在的な移動ニーズにおける基礎情報の把握
 - ・ 津駅前地区に立ち寄る利用者の移動経路、移動が多いエリアを把握
- 民間による実験
 - ・ 東口広場で賑わい創出の実験



東口

- 津駅東口周辺において魅力あるまちづくりを目指すための会議を設立
 - ・ 津駅東口周辺に賑わいや滞留空間が不足
 - ・ 津駅東口に必要機能等の意見交換



新たな技術や仕組みを積極的に取り込みながら、**継続的な進化**

官民協働によるマネジメント

ユニバーサルデザイン

DX

カーボンニュートラル

周辺地域との連携

3. 次年度以降の検討について

今後の進め方

- 令和6年度から「津駅周辺道路空間整備の具体イメージ検討」（交通拠点の機能強化に関する整備方針を検討）として、対象範囲や整備イメージへと進めていく。
- 引き続き、以下の課題を把握するため、各項目の調査・検討を進めていく。

今後の検討内容

	課題	津駅周辺地区			
		県道津停車場線	交通結節点 (東口)	東西連携 (東西自由通路)	交通結節点 (西口広場)
R 4	・求められる機能 ・役割の方向性	◆必要な機能の調査・検討:利用者、地域住民のニーズに沿った必要な機能の絞り込み、各箇所が担うべき役割を整理するために調査・検討を実施			
		■賑わいの社会実験(10.19~10.30) ○ビデオカメラ調査 ○アンケート調査 ○速度状況分析	—	—	○交通量調査(西口広場) ○アンケート調査(西口広場)
		○利用者アンケート(日常利用者・非日常利用者)〈Webアンケート〉			
R 5	↓	■賑わい創出の取組(10.11~10.22) -実施エリア検討 -賑わいや滞留機能の確認、回遊性強化の検討	○人流データ分析 ○まちづくり懇話会設立 ■賑わい創出等の取組(12.22~23)	○事業主体の決定(津市) ○事業手法について研究	○駅前広場の配置計画 ○エリアマネジメント会議設立 ○駅前広場再編イメージ図
R 6	・対象範囲 ・整備イメージ ↓ ・事業区分 ・役割分担	○歩道空間拡張の具体化(概略検討等)	○交通量調査(津駅周辺交差点方向別) ○将来交通状況予測(自動車、公共交通) ○まちづくり懇話会	○概略設計 ○鉄道事業者等の協議	○駅前広場の整備計画 ○エリアマネジメント会議 (乗降所等の利用方法等)
R 7		○交通事業者、商業・観光事業者等の協議	◆具体的な整備方針の検討 ○土地利用状況調査 ○まちづくり懇話会 ○交通事業者ヒアリング(交通結節点関係)	○交通事業者、商業・観光事業者等の協議	○駅前広場の詳細設計 ○エリアマネジメント会議 (工事期間中の利用方法等)
5		○歩道空間拡張の整備	◆具体的な業務内容の検討 ○施設の概略検討 ○採算性検討 ○まちづくり懇話会	○詳細設計	○駅前広場の再整備 ○エリアマネジメント会議 (施設の運営等)